





はじめに

このたび、「日中韓ハンドブックー Into the Three Countries」の改訂版出版の運びとなりました。日中韓三国協力事務局（TCS）が2013年にこの冊子を初めて世に出してから、はや7年がたちました。日・中・韓・英の各国語で出版された本冊子は、三国の文化の特色を分かりやすく紹介し、相互理解の促進に微力ながら一助となってきました。その一方で、この7年間で各国の人々の暮らしは、伝統を継承しつつ、変化もしています。今回は、統計数値や各種情報をアップデートしました。

この本を手にとると、日中韓が悠久の歴史の中で、独自の発展を遂げつつ、同時に交流を重ねてきたことが分かります。1999年にASEAN+3首脳会合をきっかけに日中韓首脳による朝食会を行い、2008年からは三国のみによる首脳会合が実施されています。2011年には三国協力促進のための常設機関として、三国により締結された協定に基づき、私どもTCSが活動を開始しました。三国の枠組みで、これまで21分野の大臣級会合が開催され、幅広い分野で協力が行われています。観光や青少年交流などを通じて人的交流も拡大し、2018年には、日中韓の往来が初めて3000万人を突破しました。2019年12月の第8回日中韓サミットでは、「次の10年に向けた3か国協力に関するビジョン」が成果文書として採択され、2030年を見据えた協力の道筋が築かれました。

急速に発展をとげる日中韓の交流と協力を支えるのは、国民一人一人であり、そのためにも、国民間の相互理解の促進が不可欠です。本冊子は、衣食住をはじめとした日中韓の伝統文化やライフスタイルなどを紹介することを通じ、三国が様々な面で共通性を有し、またそれぞれ異なる魅力を持っていること紹介することを目指しました。この冊子を手にとっていただいた方々にとって、互いの国への関心を高め、認識を一層深めるためのきっかけとなれば幸甚です。

事務局長 **道上尚史**
日中韓三国協力事務局

日中韓ハンドブック

Into the Three Countries

目次

基本情報

日中韓三国について学ぼう

地理	08
国旗・国歌・国花	12
言語	14
ユネスコ世界遺産	16
国民の祝日	22

ライフスタイル

日中韓三国の生活様式を詳しく知ろう

Living : 伝統衣装・住まい・色・数字・贈り物	
伝統衣装	26
住まい	28
色・数字・贈り物	32
Food & Liquor & Tea : 食文化・飲酒文化・茶文化	
食文化	36
お酒	42
お茶	46
Events : 新年・伝統的な結婚式	
新年	48
伝統的な結婚式	52
Sports & Arts : スポーツ・芸術	
スポーツ	56
芸術	62

日中韓三国協力事務局について

日中韓主要統計(2018)

基本情報

日中韓三国について学ぼう

- 地理
- 国旗・国歌・国花
- 言語
- ユネスコ世界遺産
- 国民の祝日

地理

日本、中国、韓国は共に北東アジア地域に位置する国で、互いに隣接する反面、各国特有の地理的特徴を持ち合わせています。北東アジア地域には、多くの川、湖、山が存在します。また、三国は世界の国内総生産（GDP）の約23.6%を占め、世界の人口の20.7%の割合を占めています。本書の後半部分では、三国に関する統計データを紹介しています。それでは、三国について見てみましょう。



国土面積（陸面積）

単位	Km ²	
日本	380,000	
中国	9,600,000	
韓国	100,000	

出典：中華人民共和国中央人民政府日本総務省統計局韓国統計庁

人口（2018年）

単位	1,000人	世界の人口(%)
日本	126,529	(2)
中国	1,392,730	(18)
韓国	51,635	(1)
合計	1,570,894	(21)

出典：世界銀行

日本

日本は、アジアの最東部に位置する島国で、4つの主要な島である北海道、本州、四国、九州と4000以上の大小の島から成っています。国土面積は約38万km²で、人口は約1億3000万人です。日本は、北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州の8つの地方に区分され、さらに47の都道府県（首都である東京を含む）に分かれています。主な地理的特徴として、国土の4分の3が山で構成されているため、日本は山国として知られています。日本に存在する数多くの山々の中でも富士山は最も高く、日本のシンボルとしても有名です。このように、山岳地帯の多い地形は短く、流れの速い川や少数の比較的大きい平野によって形成されています。日本は環太平洋火山帯に位置していることから、多くの山は火山であり、そのため世界でも有数の温泉の国として知られています。さらに、このような地理的位置のため、大規模な地殻運動に伴う地震が頻繁に起こります。



日本、東京スカイツリー




日本、東京タワー



日本、富士山

中国


 世界で3番目に大きな中国の国土面積は約960万km²で、13億人以上の人口を有する、世界で最も人口の多い国です。中国は23の省、5つの自治区、首都である北京を含む4つの直轄市、そして2つの特別行政区である香港及びマカオから成り立っています。また、56の民族からなり、漢民族及び55の少数民族が公式に認定されています。この広大な国土の中で、中国の風景はその人口と同じくらい多様です。西部の地形は隆起し、ヒマラヤ山脈と天山山脈が中国を南・中央アジアから隔てており、東部は黄海と東シナ海の沿岸に沿って広く人口が密集した平野があります。北部に位置する内モンゴル高原のほぼは広い大草原が占めており、南部は丘陵と低い山並みの地域が大部分を占めています。揚子江と黄河はチベット高原からはじまり、人口が密集した東部海岸に向かって流れています。中国の「五岳の長」として知られている泰山を含む山岳地帯が国土の大部分を構成しています。



中国、天安門



韓国

 韓国は、しばしば「静かな朝の国」と称され、中国と日本との間の半島に位置します。人口は約5000万人、国土面積は約10万km²で、首都ソウル特別市、6つの広域市、9つの道、そして1つの特別自治市（世宗市）から成っています。国土の70%が山で覆われており、韓国は世界で最も山の多い地域のひとつだと言えます。また、白頭山は韓国の精神を象徴する重要なものと考えられており、国歌にも歌われています。漢拏山、智異山、雪嶽山は、年間を通じて美しい景観を誇っています。韓国のもうひとつの地理的特徴は川です。韓国の人々の生活と国の経済は、川の周辺で発展しました。特にソウルを流れ抜ける漢江は、非常に密集した人口、そしてこの国の工業の中心を支えてきました。そのため、現代の韓国の高度経済成長は「漢江の奇跡」とも呼ばれています。

韓国、光化門



国旗・国歌・国花

歴史上、ほとんどの国家が国旗と国歌を制定してきました。各国独特の国旗や国歌は、その国にとって大変重要な意味があります。日本、中国、韓国にとってもそれは例外ではありません。一方、国花については、すべての国が制定しているわけではありません。国花を有する韓国とは異なり、日本と中国には公式の国花がありませんが、それぞれの国民にとって象徴的な意味を持つ花が存在します。

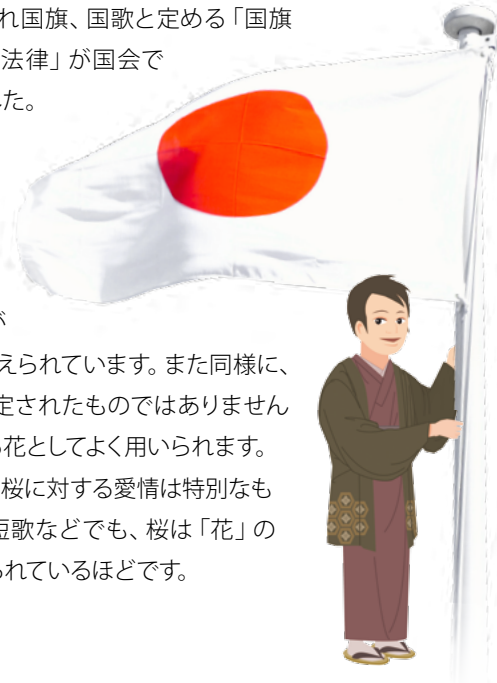
日本



日本の国旗の正式名称は「日章旗」で、一般的には「日の丸」と呼ばれています。日の丸は日本語の太陽の丸を意味し、白地の旗に太陽を表す大きな赤い丸が描かれています。これは日本がアジアの最東部に位置する「日出ずる国」であるとして、太平洋に昇る太陽をモチーフとしたものです。

日本の国歌は「君が代」と呼ばれ、歌詞は平安時代(794-1185年)に詠われた和歌の歌集の中にみられます。このように、君が代は国歌となる前から長い歴史を有し、日本人の間で広くうたわれていました。君が代の「君」は天皇のことを表し、「代」は国を意味します。天皇の地位は国民の総意によるものであるがゆえに、日本政府は君が代の歌詞を、国の永続する繁栄と平和を願うものと解釈しました。1999年に日の丸と君が代をそれぞれ国旗、国歌と定める「国旗及び国歌に関する法律」が国会で制定・施行されました。

日本には公式の国花はありません。しかし、日本国民の間では皇室の紋である菊が非公式な国花と考えられています。また同様に、桜も国花として指定されたものではありませんが、日本を象徴する花としてよく用いられます。日本文化において、桜に対する愛情は特別なものであり、和歌や短歌などでも、桜は「花」の同義語として用いられているほどです。



中国



「五星紅旗」は1949年に中国の国旗として定められました。国旗の赤い色は革命を象徴し、黄色の星は広大な赤い土地を照らした、国家統一の光明を象徴しています。1つの大きな星を4つの小さな星が囲む構図は、中国共産党と中国人民の団結を象徴しています。

現在、中国の国歌である「義勇軍進行曲」は、田漢の作詞、聂耳の作曲によるもので、1935年に作られました。これは本来、1930年代の映画「風雲児女(風雲の中の子女たち)」の主題歌で、中国東北地方で勇敢に抗日の最前線に赴いた人々の姿を描いたものです。この曲は1949年に暫定的に国歌として認定され、1982年に中国の国歌として正式に採択されました。

中国には公式な国花はありませんが、中国の人々が最も好む花は牡丹と認識されています。



韓国



韓国の国旗は「太極旗」と呼ばれています。旗の中央にある太極円は、東洋哲学の陰陽の原則に基づいてデザインされ、上の赤い部分は陽を、下の青い部分は陰を表す2つの部分に分かれています。この陰陽の力は無限大に広がる宇宙の絶え間ない動きと均衡、調和を象徴しています。太極円を中心に4つの角にはそれぞれ「卦」が描かれており、これは宇宙の四大要素である天、地、火、水を表します。

韓国の国歌は「国を愛する歌」という意味の「愛国歌」です。愛国歌は、神が国家を守ることへの願いを表現しています。そして、国民の活力に満ちた精神と忠誠心によって国が永遠に守られると謳っています。太極旗と愛国歌は1948年にそれぞれ正式に国旗、国歌として採択されました。

韓国の国花は無窮花です。不朽を意味する「無窮」という言葉は、韓国文化の永続性や、韓国人の意思堅固な姿と忍耐強い性格をよく象徴しています。



言語

言語は、長い歴史の中で文化や気候の影響を受けながら徐々に形成されてきました。したがって、日本、中国、韓国が、各国独特の言語と文字を發展させてきたことはごく当たり前のことと言えます。漢字は三国において使われますが、漢字の字体や意味はそれぞれ異なる場合もあります。グローバル化によって、現代では3つの言語は世界に広く知れわたるようになりました。下表が表すように、世界中で多くの人々が日本語、中国語、韓国語を学んでおり、これは三国とその他の世界の国々との交流に大きく寄与しています。

国別常用漢字

単位	字数
日本語	2,136
中国語	2,500
韓国語	1,800

資料：日本文化庁 中国教育部 韓国教育部

各言語の教育が実施されている国数

単位	国及び地域
日本語	142
中国語	162
韓国語	60

資料：日本国際交流基金 汉办(孔子学院本部) 世宗学堂財団

日本



日本では「日本語」が使われています。現在でも日本の各地方において様々な方言が使われていますが、メディアの発達によって東京の話し言葉を基本とする標準語が全国に広がりました。日本語はトルコ語やモンゴル語のようなアルタイ系の言語に近く、文法的には韓国語と類似していることが広く認識されています。

日本語は基本的に、「漢字」、「平仮名」、「片仮名」の3種類の字体で表記されます。漢字は表意文字であり、日本語では1つの漢字が複数の音を持つことがよくあります。中国の書記方法が日本に導入された後に、中国の文字を変形させた2種類の音標文字である平仮名と片仮名が作られました。平仮名と片仮名はそれぞれ48文字から構成されています。平仮名は漢字を簡略化して作られたもので、10世紀以前から主に女性によって用いられてきましたが、現在では、日本語の表記に一般的に使われています。片仮名も平仮名と同様に、漢字を変形させてできたものですが、平仮名と異なる点として、片仮名は主に漢字以外の外来語を書くときなどに使われるという点が挙げられます。

敬語は日本社会を反映した言語要素と言えます。敬語は相手に対する尊敬の意を表するために用いられ、日本社会では丁寧な言葉を適切に表現することが大変重要だと考えられています。会話の中で適切な敬語を使用するためには、社会的地位、身分、年齢、性別などを考慮しなければならないなど、敬語を習得するのは容易な事ではありません。

パソコン等の機器で日本語を入力する際には、まず発音通りに入力します。日本語の単語を入力すると仮名文字やローマ字が画面に表示され、その中から適当な漢字混じりの単語に変換する仕組みとなっています。



中国



中国は多民族国家ということもあり、80以上の言語が存在します。多様な言語の中で中国の公用語は、北京語の発音が基になった「普通話」です。

中国語は世界で最も多くの人々に話され、国際連合の6つ公用語のひとつでもあります。中国に存在するいくつかの主要な語派の言語において、普通話は人口の約90%を占める漢民族の共通語です。漢民族が使用している他の主要な言語として、広東話(粵語)、上海話(呉語)、福州話(閩北語)、福建・台湾話(閩南語)、湖南話(湘語)、江西話(贛語)、客家話などがあります。55の少数民族のうち、回族と満州族も普通話とその文字を使用します。チベット族、イー族、蒙古族およびウイグル族などの29の少数民族は、それぞれ固有の伝統的な言語を使用します。

これまで発見された中で最も古い中国の文字は、約3000年前に貝殻や骨に書かれた甲骨文字です。歴史を通じて、古典的な文語である文言が中国の書記方法として使われてきましたが、20世紀の初めから新文化運動を経て、現代文語である白話が広まりました。白話は現代漢語の話し言葉で、現代中国で広く使われています。

1956年、中国政府は現在広く使われている簡体字を発表しました。最近では、中国大陸の人々の大部分は簡体字を使い、香港、マカオ、台湾では繁体字が広く使われています。

中国語の発音表記体系である拼音(ピンイン)は、1958年に採用されました。この発音表記体系は4つの異なる高低音のパターンである四声に区別されます。漢字の発音表記を入力して変換することによってコンピューターに漢字を入力することができます。



韓国



韓国の公用語である「韓国語」及びその書記方法である「ハングル」は、韓国人にとって国家の強いアイデンティティーを形成するうえでの決定的な要素となりました。

長年にわたり、韓国の上流階級では古典的な文語である漢文を使用していた一方、女性や中流層、下層階級は、漢字の音をとった吏読によって韓国語を表記していました。そのような二重構造は困難かつ不便だという認識のもと、1446年に世宗大王と学者は、新しい韓国語の文字体系を発明し公布しました。ハングルと名づけられたこの新しい文字は、5つの合成子音を基とした14の基本子音と、宇宙の三つの基本要素(天、地、人)を象徴とした10の短母音から構成されています。ハングルは学びやすく、書きやすいため、韓国の高い識字率と韓国文化の発展に貢献してきました。また、文字体系の原理や子音・母音の発音方法などが詳しく叙述された書物である「訓民正音」は国宝に指定されており、1997年には、この書物の優れた科学的な水準と韓国社会での実用性が認められ、ユネスコ世界記憶遺産に登録されました。

韓国の首都であるソウル近郊の地域で話されている言葉とアクセントが韓国語の標準語とされている一方、他の地域にも固有の方言が存在します。韓国の方言は伝統的に国の行政地域ごとに違いが表れますが、その中でも済州島の方言が最も違いが顕著だとされています。

韓国語には幅広い敬語が存在します。今日、韓国で使われる敬語法は、長い年月をかけて發展してきたものです。韓国語において適切な敬語を使用するには、日本語と同様に年齢、性別、社会的地位、二人の話者の親密さなど、様々な要素が考慮されます。最近の傾向として、若い世代はより単純で平等な話し方を好みます。



韓国語キーボードの入力方式は、子音が左側、母音が右側に位置し、子音母音の順でキーを叩くことによって一文字が入力されます。

ユネスコ 世界遺産

国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）世界遺産とは、各国の地理的・文化的な特徴を反映し、人類にとって「顕著な普遍的価値」を有する遺産のことを言います。日本、中国、韓国の世界遺産も、それぞれが保有する多様な自然と文化を見事に表しています。世界遺産には文化遺産、自然遺産、複合遺産の3種類があります。それでは、三国それぞれの様々な遺産について見てみましょう。



日本



法隆寺地域の仏教建造物

現存する世界最古の木造建築物である奈良県の法隆寺は、1993年に日本で初めてユネスコ世界遺産に登録されました。法隆寺地域には、各時代に作られた建造物の他に、48体の仏像と約2300にのぼる国宝・重要文化財が存在します。

法隆寺は歴史的価値が極めて高いことで知られています。また、その独特な建築様式は、仏教が伝来した同時期に中国から朝鮮半島を経由して伝わったとされており、宗教的にも重要な意味を持っています。実際、607年に法隆寺が建築されたことを機に仏教も日本全国に広がっていきました。

法隆寺は東院と西院に区別することができます。これらの中には金堂、五重塔、中門、回廊等、中国や韓国には現存しない仏教初期の木造建築物が数多く残っています。



日本、姫路城 ©神戸観光壁紙写真集



姫路城

兵庫県に位置する姫路城もまた、法隆寺地域の仏教建造物とともに1993年に日本で初めてユネスコ世界遺産として登録されました。姫路城のもととなる建造物は1333年より築造されました。

外観5階建ての大手守と3つの小天守を含む83の建造物から構成される姫路城は、堀と防護壁に囲まれるよう設計されています。この堅固で優雅な城造りは、防御に工夫した日本独自の城郭構造を最もよく示していると評価されています。

姫路城はまた、木造建築の最高傑作とも言われています。白漆喰で塗られた美しい城壁と木造城郭建築は、姫路城の別名である「白鷺城」の由来となっています。また、連立式天守の洗練された装飾とその美しさは日本においても非常に珍しいと言われています。このように、17世紀の日本を代表する貴重な城郭建築である姫路城は、常に多くの人々を魅了しています。



日本、厳島神社の大鳥居

日本、厳島神社 ©Marufish



厳島神社

古来より、厳島は日本固有の多神教である神道の聖地でした。山々が連なってできたこの島は、「日本三景」のひとつとして知られています。その厳島の海上に立地している厳島神社は、神道の伝統的な建築様式を用いて造られ、1996年に世界遺産に登録されました。

厳島神社とその大鳥居は、海上に建てられていることで有名です。海の上に建築されたこの神社は、海の守り神として長く人々から崇拝されてきました。また、その敷地内には本殿を中心に、能舞台、楽房があり、その周囲には大小の祠堂があります。それらは全長約300mにおよぶ廻廊でつながっています。観光客は海を眺めながら散策を楽しむことができます。



北京と瀋陽の明・清朝の皇宮群

北京と瀋陽にある明朝（1368–1644年）と清朝（1636–1912年）の皇宮は、それぞれ1987年と2004年にユネスコ世界遺産として登録されました。紫禁城、または故宮博物院として有名な北京の中心街に位置する故宮は、明・清朝時代の500年の歴史を表していると言われています。また、瀋陽にある皇宮は1625年に築造され、中国少数民族の文化が表現されています。

北京の紫禁城は、大きな方形の敷地に建てられました。城壁内にある建造物は左右対称に配列され、正面に外朝、後面に内廷が配置されました。その設計と空間配列は、古代中国から伝わる都市計画と伝統的な宮殿建築の特徴を見事に表わしていると評価されています。瀋陽の皇宮は北京の故宮よりも規模は小さいですが、満州族や蒙古族、その他の少数民族の歴史的、芸術的な特徴が融合して造られています。

中国、瀋陽の皇宮群



中国、北京の皇宮群



秦の始皇陵

秦朝（紀元前221–紀元前207年）の秦の始皇帝陵は、世界で最大規模を誇る秦の始皇帝（秦朝の最初の皇帝）の墓として知られています。秦の始皇帝は初めて中国統一を果たし、中国王朝を建国した人物です。皇帝の死後、数千の兵馬俑が陵墓の中央に埋められました。72万人の労働者が36年の歳月をかけてその築造とその他の埋葬品を完成させたと言われています。

秦の始皇陵は、中国の歴史と建築学を代表する最高傑作です。兵馬俑と銅車馬は古代中国人の優れた技術と芸術性を示しています。特に兵馬俑の顔つきは見事に表現され、当時の兵士を忠実に再現していると言われています。地下の陵墓の発見は兵馬俑の発見と共に世界を驚かせ、1987年にユネスコの世界遺産として登録されました。



中国、秦の始皇陵



万里の長城

万里の長城は中国の古代文明を代表する遺跡です。この長大で勇壮な建造物は、多くの人々の手により約2000年もの歳月をかけて築かれました。1987年に中国で初めてユネスコ世界遺産として登録され、「中世の世界七不思議」のひとつとしても記録されました。現在でもその歴史的、建築学的価値により世界中の多くの人々を魅了しています。

万里の長城の建設はもともと、北からの騎馬民族の侵入を防ぐために、中国の諸王朝の軍事防御プロジェクトとして始められました。近年、中国政府が実施した、最近の測量調査の結果によると、主に石やレンガで造られた万里の長城は、中国東部の国境からゴビ砂漠まで、およそ8850 kmにまで及んでいます。万里の長城はいくつかの短い城壁が連なって構成されており、断続的な造りとなっています。さまざまな城壁がある中で、明朝（1368–1644年）に造られた八達嶺が最も多くの写真に収められ、たくさんの人々が訪れる城壁として知られています。



中国、万里の長城



中国、万里の長城

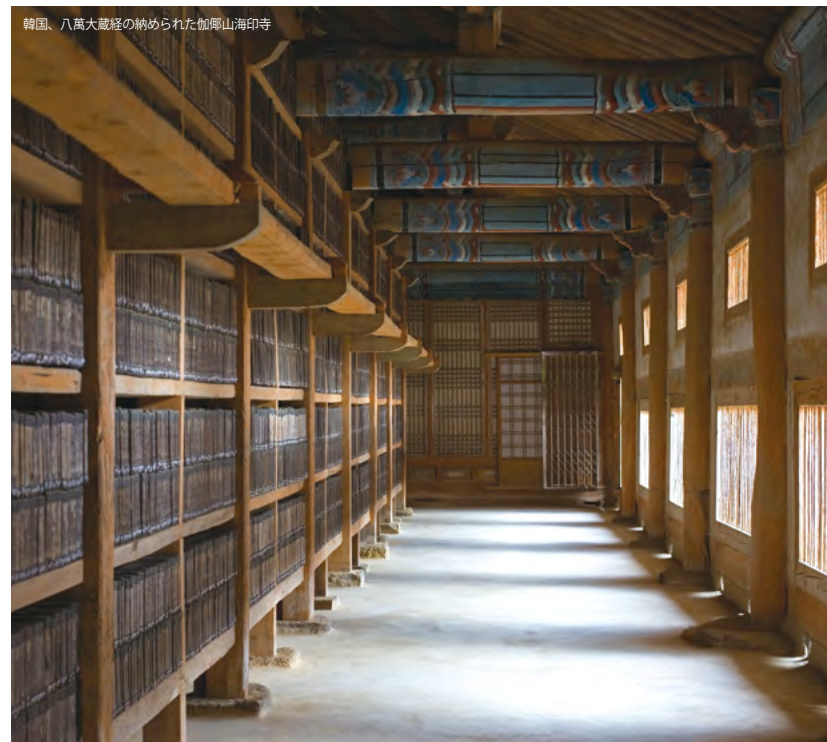


八萬大藏經の納められた伽倻山海印寺

藏經板殿と高麗八萬大藏經は韓国の海印寺に存在する貴重な文化財です。慶尚南道伽倻山に位置する海印寺藏經板殿は、仏教の教えである大藏經が記された八萬大藏經の保管場所です。

8万枚余りの木版からなる八萬大藏經は、13世紀に外敵の侵入を仏力で阻止しようと祈願する目的で造られました。この八萬大藏經は、哲学、宗教、道徳、社会および歴史について説いた最も古く、完全な仏教經典の叢書で、その完成度と芸術性の高さから、歴史上最も価値のある木板として賞賛されています。

藏經板殿も文化的・科学技術的価値の高い文化財で、八萬大藏經を保護・保管することを目的に建造されました。この建物には湿度や温度調節を有効に行うための効果的な換気設備が備えられており、科学的に非常に優れた造りをしておりと評価されています。八萬大藏經の納められた伽倻山海印寺は、1995年に韓国で初めてユネスコ世界遺産のリストに登録されました。



韓国、八萬大藏經の納められた伽倻山海印寺



韓国、昌徳宮



韓国、濟州火山島と溶岩洞窟群、万丈窟



昌徳宮

ソウル鐘路区の中心に位置する昌徳宮は、朝鮮時代（1392-1910年）の王宮であり、韓国で最も美しい日跡地のひとつとして知られています。この王宮は、200年にわたり歴代王族の寝殿空間として王と王族から愛されました。

昌徳宮は三国時代（紀元前57-西暦668年）から伝わる独特な設計方法を用いて、15世紀の初めに建てられました。昌徳宮は周囲の自然環境と調和するように設計されたことで有名です。例えば、後苑は韓国の伝統的な庭園を形づくるのに必要な芝庭、蓮池、石橋、丘、亭子などを用いて自然と融合した造りとなっています。昌徳宮は1997年にユネスコ世界遺産に指定されています。



濟州火山島と溶岩洞窟群

韓国国内のみならず海外からの観光客の人気をも博している濟州島は、2007年にユネスコ世界遺産に登録されました。濟州島は雄大な自然に恵まれた火山島として知られ、主な観光地としては漢拏山国立公園、城山日出峰、拒文オルム（岳）溶岩洞窟系などが挙げられます。

漢拏山は数十億年にも続く火山活動によって形成された山で、傾斜は緩やかですが、韓国で一番の高さを誇ります。また、温帯から寒帯にかけて群生する様々な植物が高度別に垂直に分布していることでも有名です。城山日出峰は、海底噴火によってできた岩山で、頂上には巨大なクレーターがあります。溶岩洞窟群は寄生火山である拒文オルム（岳）と5つの溶岩洞窟（ペンディ窟、万丈窟、金寧窟、龍泉洞窟、タンチョムル洞窟）などが含まれます。溶岩洞窟はそれぞれ複雑で規模が大きく、石灰岩の壮大な光景を作り出しています。



韓国、濟州火山島と溶岩洞窟群、城山日出峰

国民の祝日



日本
お盆

お盆には先祖の霊をお迎えする仏教の行事です。この期間、家族や親戚が集まって故人をしのび先祖を供養します。

中国
中秋節

中秋節には家族や親戚などがお互いへの愛情を表現し、よりよい生活を願う祝日です。家族が集まって月見をしながら月餅を食べます。

韓国
秋夕

韓国の秋夕は家族が集まり食事を共にして語り合い、豊作を先祖に感謝します。

日本・中国・韓国
日本の元旦 / 中国の春節 / 韓国のソルラル

日本の元旦、中国の春節、韓国のソルラルは各国それぞれ最大の祝日です。家族と温かで平和な時間を過ごすために人々は里帰りします。

	日本	中国	韓国
1月	元旦* (1月1日) 成人の日 (1月の第2月曜日)	新年 (元旦) (1月1日)	新正月 (元旦) (1月1日)
2月	建国記念の日 (2月11日) 天皇誕生日** (2月23日)	春節 (旧正月)* (陰暦1月1日)	ソルラル (旧正月)* (陰暦1月1日)
3月	春分の日 (3月20または21日)		独立運動記念日 (3月1日)
4月	"ゴールデンウィーク"* - 昭和の日 (4月29日)	清明節 (4月4日)	
5月	- 憲法記念日 (5月3日) - みどりの日 (5月4日) - こどもの日 (5月5日)	労働節 (メーデー)* (5月1日)	こどもの日 (5月5日) 釈迦誕生日 (陰暦4月8日)
6月		端午節 (陰暦5月5日)	顕忠日 (忠霊記念日) (6月6日)
7月	海の日 (7月の第3月曜日)		
8月	山の日 (8月11日) お盆*** (8月中旬)		光復節 (独立記念日) (8月15日)
9月	敬老の日 (9月の第3月曜日) 秋分の日 (9月22または23日)	中秋節* (陰暦8月15日)	秋夕* (陰暦8月15日)
10月	体育の日 (10月の第2月曜日)	国慶節* (10月1日)	開天節 (建国記念日) (10月3日) ハングルの日 (10月9日)
11月	文化の日 (11月3日) 勤労感謝の日 (11月23日)		
12月			クリスマス (12月25日)

* 休日は各国の規定によって実際の休日の前日や翌日を含め3日またはそれ以上になることがある
** 天皇が交替すると、天皇誕生日は新しい天皇の誕生日に替わる。
*** お盆は祝日ではない。

ライフスタイル

三国の生活様式を詳しく見てみよう

• **Living**：伝統衣装・住まい・色・数字・贈り物

伝統衣装 住まい 色・数字・贈り物

• **Food & Liquor & Tea**：食文化・飲酒文化・茶文化

食文化 お酒 お茶

• **Events**：新年・伝統的な結婚式

新年 伝統的な結婚式

• **Sports & Arts**：スポーツ・芸術

スポーツ 芸術

伝統衣装

日本、中国、韓国の文化的アイデンティティを示す例は数多くありますが、その違いが顕著に見られるのは伝統衣装だと言えます。三国の各伝統衣装は、それぞれ異なる気候的、文化的、歴史的な影響を受け、世界の他の地域では見られない独特な特徴を持ち合わせています。本章では、三国の女性の代表的な伝統衣装について見てみましょう。



日本、振袖

日本



日本の伝統衣装は着物と呼ばれ、現在知られている着物の様式は平安時代（794—1185年）に形作られたものです。近年では、着物は正月、冠婚葬祭、卒業式や茶会等の特別な機会に着ることがあります。人によっては、日本の伝統芸能、高級レストランや伝統的な行事に参加する際に着る場合もあります。

着物は一般的に絹織物で作られ、帯を結んで着ます。着物の製作工程は、絹の原糸を紡いだ絹糸で機を織り、その生地を直線に裁断し、最後に複数の生地を縫い合わせて着物が出来上がります。絹の他に、綿で作られた拵（かすり）、紬（つむぎ）などもまた普段着の着物の一般的な素材として用いられます。着物は地方ごとに多様な種類が存在し、織りの着物と染めの着物に大きく分けられます。織りの着物とは、染めた糸を織ったもので、代表的なものとして大島紬、久留米拵などがあります。染めの着物とは、白地の布に模様染めしたもので、筆で模様を描いたもので、加賀友禅、京友禅、沖縄紅型などが挙げられます。

着物は、着る場や年齢によって様々なデザインや種類が存在しますが、女性の着物は大きく振袖と留袖の2種類に区分されます。その最も大きな違いは袖の長さで、振袖は袖が肩から踵までと長く、未婚の女性が着る着物です。一方、留袖は振袖より袖が短く、着物の下半分にだけ柄がほどこされています。

中国



旗袍（チーパオ、又はチャイナドレス）と呼ばれるワンピースは、最もよく知られている中国女性の伝統衣装であり、本来は満州族の女性が着ていた衣装です。満州族には一族の組織を統治する八旗制度と呼ばれる行政制度がありました。旗袍という名前はそこから名づけられたもので「旗人（満州民族）の着る長い上着」という意味を持ちます。

本来、旗袍は高い詰め襟とストレートスカートが特徴の広くゆったりとした形でした。伝統的に、生地は絹織物で、蓮、龍、鳳凰などの模様があしらわれていました。20世紀初期には、主に上海で日常生活に適した着心地の良いものに改良されました。その後、腰回りが細く左右の裾にスリットの入った、女性の体の美しさを強調するスタイルとなりました。旗袍には丈の短い旗袍と丈の長い旗袍があります。旗袍に使われる中国結びのボタンは、盤口と呼ばれ、その形はカエルなどのデザインのものがあります。旗袍の伝統的な様式は、中国の独自性をよく表しており、その他の多くのドレスの中でも際立った存在です。

その優雅さゆえに旗袍は、著名な女性の重要な席におけるドレスとして選ばれるようになりました。中国の一般女性も、正式な集いや結婚式の衣装として旗袍を好んで着ます。旗袍の人気は世界的にも広まり、国外のファンも数多く存在します。



中国、旗袍

韓国



韓服は韓国の伝統衣装です。その起源は三国時代（紀元前57—西暦668年）にさかのぼり、高句麗の古墳壁画に韓服が描かれています。韓服の模様や形は朝鮮半島の地域的、気候的な特性だけでなく、ファッションの流行や文化的、歴史的な流れに沿って社会の中で変化してきました。今日の韓服は、朝鮮時代（1392—1910年）末期に日常的に着られていたものが原型となっています。現代において韓服は、ソルラル（旧正月）、秋夕、子供の1歳の誕生日、結婚式などに着ることはありますが、日常的に着ることはあまり多くありません。

韓服の基本的なデザインは、曲線の流れと鮮やかな色彩が強調されたものとなっています。女性の韓服は上衣とスカートから成り立ち、先の部分が膨らんだ靴下と幾重にも重なった下着と共に着用します。

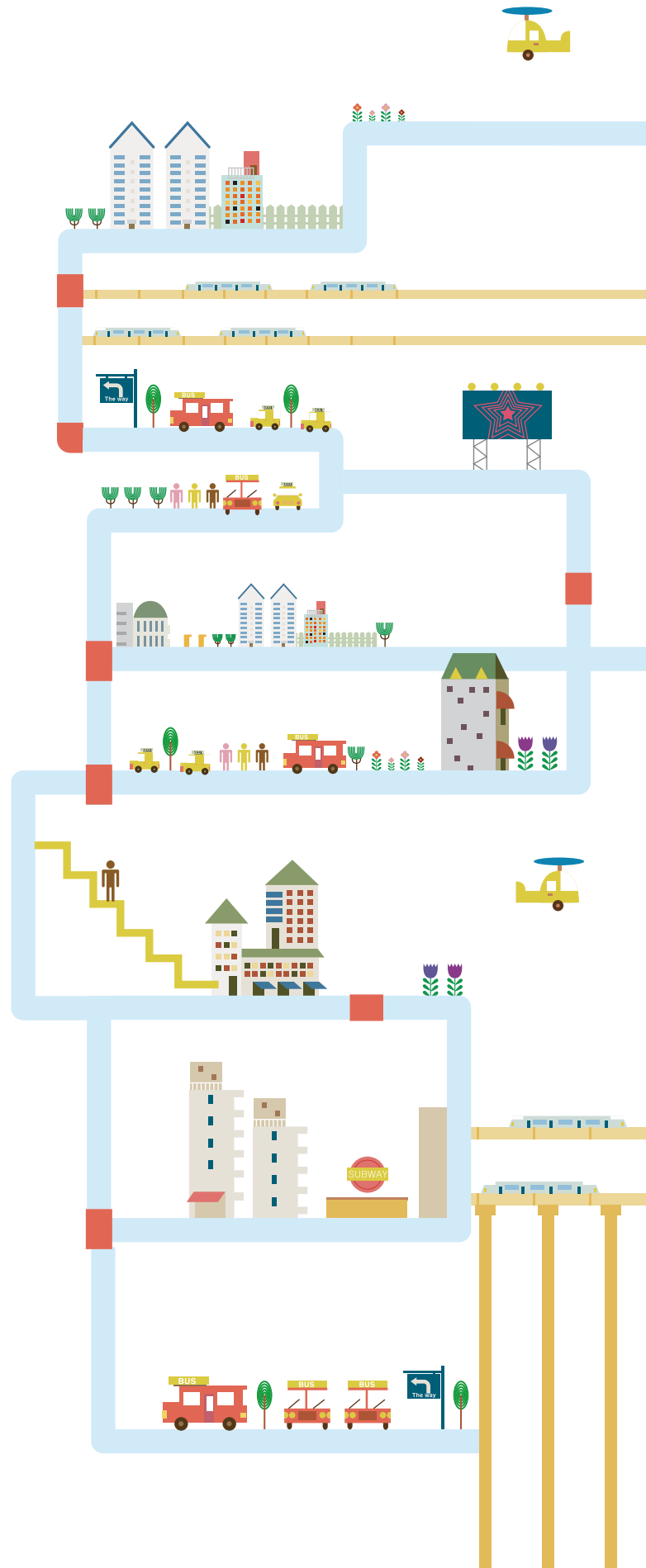
女性が韓服を着用する際に身に付ける装身具として、冬用の帽子、礼式行事のための冠、かんざしなどがあります。かつては、韓服の色は着る人の性別や年齢、社会的身分を象徴していましたが、今日の現代化された韓服の色は、着る人の好みで選ばれるようになりました。



韓国、韓服

住まい

日本、中国、韓国の人々は、古くから自然環境と調和した暮らしを好み、それぞれの自然環境や気候に調和した固有の伝統家屋の様式を作り上げてきました。しかし、現代では社会の中心が都市へと移り、調和よりも便利さが優先されるようになったことから、三国の住宅様式も変化しました。三国の社会はそれぞれ西洋の影響を受け、伝統住宅に比べて現代の住宅様式は互いに類似していることが分かります。



日本

日本の伝統的な住宅の建築様式は、気候の影響を大きく受けてきました。日本の夏は全国的に長く、暑く、湿度が高いことから、伝統住宅の多くは木の柱で支えられた木造住宅です。木造住宅は、夏は涼しく冬は暖かいという特徴があります。

このような伝統住宅は日本全国で見られますが、地方ごとの独特な気候や生活様式によって少しずつ異なります。最も代表的な日本の部屋の構造は、16世紀後半に形づくられた様式である書院造りに由来する和室です。部屋は、畳、木造の天井、障子、襖などから構成されています。

畳は、600年以上にわたって日本の家屋で使われてきました。畳の床は、夏は涼しく冬は暖かく、湿度の高い日本の気候の中では、カーペットよりも肌触りが良いため好まれています。また、障子は薄い紙でできているため、通気性が良く、外の明かりを中によく通します。動く壁のような役割を果たす襖には、美しい絵が描かれたものもあり、その絵が部屋を彩るアクセントとして作用します。障子や襖は取り外すことが可能なため、部屋の大きさを適切に広げたり小さくしたりすることができます。

日本の住宅様式は変化しており、その中でも最も顕著なものとしては、引き戸がある伝統的な木造建築から、現代的な住宅様式や鉄筋コンクリートマンションへの変化が挙げられます。近年の調査によれば、人口の54%は一戸建てに住み、44%

日本、慈照寺東求堂 ©Martin.



はアパートやマンションなどの集合住宅に住んでいますが、都市部では集合住宅に住んでいる割合が58%に達します。近年の住宅デザインは、フローリングの床や鉄筋が用いられた西洋式のものが目立ちます。しかし、多くの住宅は現在でも、洋式の部屋と伝統的な日本式の畳部屋の両方を備えています。

中国



中国の国土は広いので、地域的な特徴によって伝統住宅のデザインやスタイルが変化します。その中で最も有名な伝統住宅の様式は、北京の四合院です。

四合院はその名の通り、中庭を取り囲むようにして四方に内向きの家屋が位置しています。南向きの建物が四合院の中心となり、伝統的に一家の主人が住む場所です。東側と西側の建物は子女や孫たちのための建物で、北向きの建物は使用人に割り当てられました。四合院の入口の門は、伝統的な中国の哲学的概念である風水によって南東の方角に配置されています。

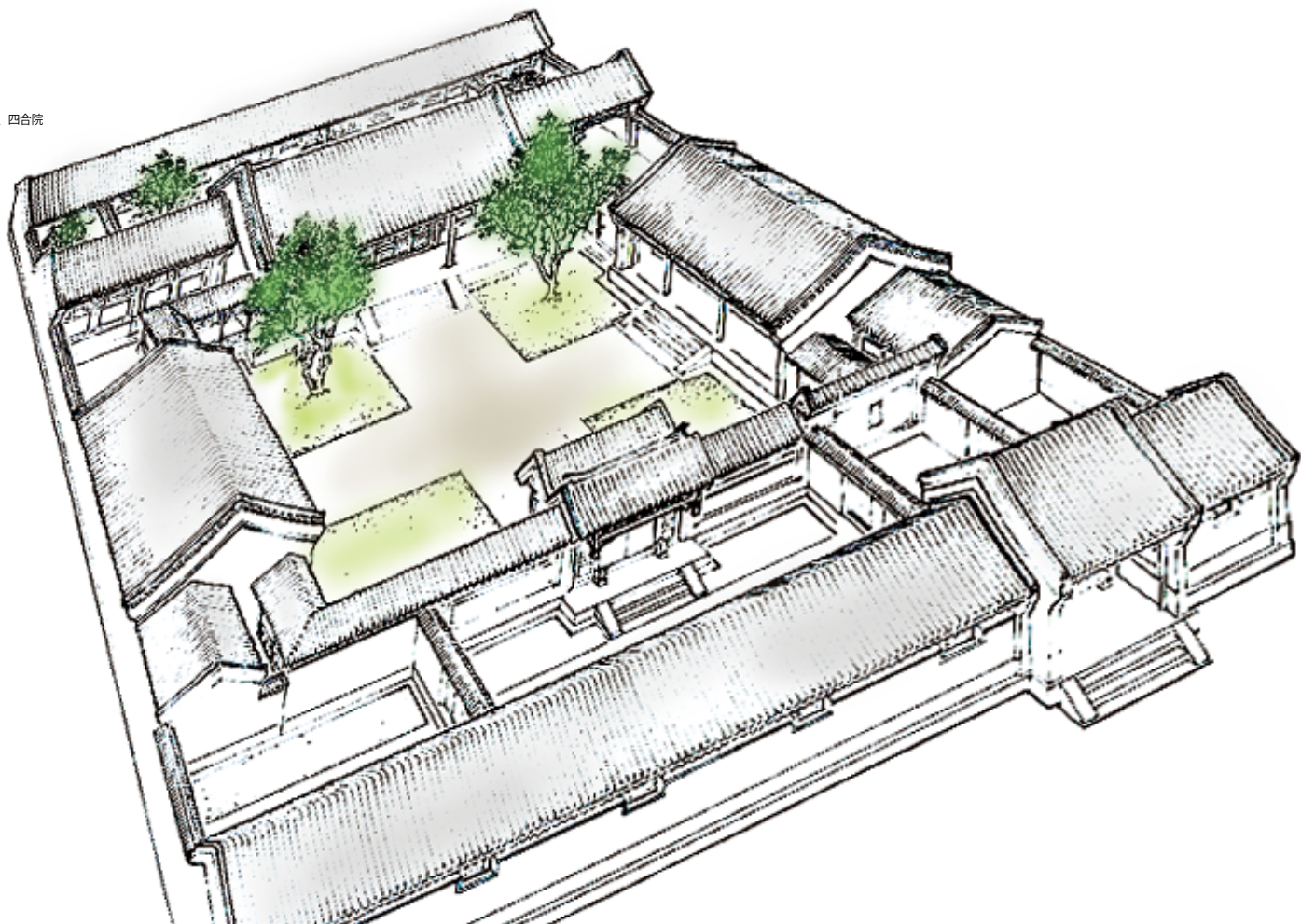
門の内側には影壁があり、これは外から中の様子が見えないようにプライバシーの保護を図る役割と、魔よけの役割を持ち合わせています。この取り囲まれた形の住宅様式は、冬の風や砂嵐から人々を守り、空間とやすらぎ、プライバシーを保護するのに役立ちます。また、特に規模の大きな四合院では、中庭が静かな野外庭園として使われています。

近年、中国の生活スタイルは社会の発展により、世界中どこにでもある一般的なものと差はなくなり、また、多くの中国の人々はマンション等の集合住宅に住んでいます。北京や上海のように賃貸料の高い大都市では、アパートをルームシェアする人々もいます。



中国、四合院

中国、四合院



韓国



韓屋と呼ばれる韓国の伝統住宅は、一般的に気候や地理と調和するよう建てられましたが、その中心には韓国の祖先の哲学と知恵と伝統文化が反映されています。韓屋は屋根の材料（藁、薪、瓦）によっていくつかのタイプに区分されますが、近年の韓屋は大部分が瓦屋根です。韓屋の床は石と土でできており、窓には伝統的な紙である韓紙が貼られます。また夏には、人工的な冷房装置に依存するのではなく、開かれた窓や戸口を通る空気の流れによって涼しく保たれるような造りになっています。韓屋のもう一つの特徴は、オンドルと呼ばれる床下暖房設備です。これは、厨房のかまどから床下に作られた煙道を通して熱を伝え、各部屋を暖める方法です。オンドルは現代の韓国にある多くの住宅でも使われています。こうした科学的な建築技術や環境にやさしい構造が評価され、韓屋は国の文化財に指定されています。

近年では、ほとんどの韓国の住宅様式が西洋の影響を受けたものに変化してきました。韓国で最も一般的な住宅は、西洋式的设计を取り入れたマンションです。一部の人々は、マンションよりも賃貸料の安いヴィラ (villa: 韓国語で、数世帯を有する低層建物を言う) のような集合住宅に住んでいます。多くの一人暮らしの人々はスタジオタイプのワンルームマンションやオフィステル (職住一体化の住宅) に住む傾向があります。

また、韓国には伝賃という独特な住宅賃貸制度があります。伝賃とは、保証金を一括払いして物件を借り、契約終了時にその金額が全額返還される制度で、一般的に契約期間は2年から3年です。



韓国、伝統器

韓国、韓屋



色・数字・贈り物

文化は私たちの日常生活に影響を与えます。異なる文化圏に住んでいる人々は物事の考え方の認識も異なります。日本、中国、韓国の色、数、贈り物等には、各国の文化が表現され、異なる意味合いがある場合があります。また、これらの文化は各国に住む人々の行動、思考、感情及びコミュニケーションに影響を与えます。

日本



色

日本の場合、中国で「赤」が好まれるような、特定の色に対するこだわりは強くありません。しかし、冠婚葬祭など行事ごとに相応しい色は習慣として存在します。結婚式に出席する場合、男性は黒の礼服と白いネクタイ、女性は花嫁が目立つように白以外の服を着ることが一般的です。また、葬式では男女とも黒の礼服を着用し、男性のネクタイの色も黒になります。祝い事や新年に欠かせない、赤と白（紅白）の組み合わせはめでたい色として使用されます。飾り物（横断幕やリボン）や土産物（まんじゅう）や食材（かまぼこ）にも紅白の組み合わせが見られます。



日本、和菓子
©wakanmuri

日本、紅白饅頭

日本、かまぼこ



数字

日本語で4の発音は「死」を連想するため、縁起の悪い数字と認識されています。例えば、病院やホテルでは一桁目に4がつく階や病室がないことがあります。また、9の発音は「苦しみ」を連想されることから、4ほどではありませんが、敬遠されることがあります。西洋の影響により、7は好まれ、13は好まれない傾向にあります。その他、伝統的に3、5、7等の奇数が好まれることもあります。例えば、結婚式のご祝儀の額は、「割れない」数字として3万円、5万円といった、頭が奇数となる額にすることが一般的です。また、8（漢字で「八」）は末広がりを連想させるため、縁起が良い数字とされています。



贈り物

日本人では、贈り物を手渡す際、謙虚さを表すためにマナーとして、「つまらない物ですが・・・」と一言添える習慣があります。また、ビジネスや私生活にてお世話になっている人を訪問する際に、贈答用のお菓子を持って行ったり、旅先や出張先の特産品（主に食品）を買って帰り、親しい人のみならず、職場やお世話になっている人にも贈る文化があります。なお、贈り物を受け取る側は贈り手の目の前で開封すると失礼にあたる場合があります。また、毎年夏には「お中元」、冬には「お歳暮」として日頃お世話になっている方々に贈り物をする習慣があります。贈り物を受け取った側は、「お返し」として返礼の贈り物をする人が多いのも日本の特徴です。一方、病院にお見舞いに行く際、花を持参することは一般的ですが、病気が長引くことを連想させるので、鉢植えを贈るのはタブーとされています。



日本、土産菓子
©Yusuke Kawasaki



中国



色

中国文化において、赤は最も運氣も招き入れる色として認識されています。赤は喜び、美貌、運氣、福及び成功を象徴すると伝えられています。様々な祭り、旧正月や結婚式を含む行事にて使用されます。旧正月には、大人から子どもに現金入りの赤い封筒を配る習慣があり、玄関や門には縁起の良い言葉が書かれている赤い紙を貼ります。しかし、赤色で名前を書くと、名前を書かれた人は不幸になるという言い伝えも存在し、縁起の悪い色として捉えられる場合もあります。

黒は中国で悪運、悲しみや不法の意味を連想させる場合があります。また、厳粛で深刻な状況や犯罪組織を意味する言葉（黒社会）にも使用され、不法タクシーのことを黒車と呼びます。その一方で、正義を象徴する場合があります。正義のために裁判官として戦う姿が有名な包拯（ほうじょう）は黒い顔が特徴的であり、京劇、テレビドラマや時代劇のキャラクターとしても親しまれています。白は清らかな様を連想させますが、同時に死を意味する場合もあり、伝統的な中国の葬式では白い喪服を着用します。その他、陰陽の調和を表す太極拳のシンボルは白と黒を使用しています。



中国、紅包



数字

中国人は数字がもたらす意味を特に気に掛けます。発音が「発財（財を成す）」と似ているため、8は中国で最も好まれる数字です。中国人の携帯番号や結婚式の日付、ナンバープレート等に8は多くみられます。他にも、2008年の北京オリンピックの開幕式は8月8日に行われました。9は永遠を連想させる「久」と発音が似ているため、縁起のいい数字と認識されています。恋人は、記念日等に相手に99輪のバラを送り、永遠の愛を示すこともあります。6は「滑らか」を意味する「溜」と発音が似ているため、物事が円滑に進むことを意味する数字として認識されています。近年、オンライン上（特にゲーム等）で人の行動や操作を褒める時には666とコメントする場合があります。



一方で「死」と発音が似ていることから、4は不吉な数字として認識されており、一部の建物では4階と14階が回避されている場合があります。



贈り物

中国語のことわざにもある通り、些細な贈り物でも心がこもっていることが重視され、通常は、高価なものを送らなければいけないという訳ではありません。

同時に、中国ではタブーとされている贈り物もあります。例えば、梨は「（離）れる」と発音が似ているため、フルーツバスケットを贈り物とする時は、梨を除くことが礼儀とされています。また、扇子の「扇」や「傘」の発音は「散（らばる）」と発音が似ているため、プレゼントとしてはそぐわしくないとみられています。また、時計を贈る（「送鐘」）ことは、死を看取る（「送終」）と同発音なのでタブーとなっています。その他、緑の帽子とは、「妻の浮気」を意味する言葉でもあるため、中国人男性に緑の帽子を贈ることは、よくないとされています。

韓国



色

韓国人は白衣民族と自称する通り、伝統的に白い服を着用することを好みます。他の色のベースとなる白は、忍耐、清らかさ、献身、平和を連想する色として親しまれています。

伝統的に、赤は陽、青は陰を表し、その二つの色を合わせることで、この世の始まりである陰陽を意味すると言いつづられています。

赤と青が使用されている例として、「青紗提灯」があります。青紗提灯は赤と青の絹地の伝統的な提灯（ちょうちん）であり、朝鮮時代の結婚式で使用されていたといわれています。新郎が馬に乗り、新婦の家に向かう時と新婦が駕籠に乗り新郎の家に向かう時、道を照らすために、赤い絹地の上に青い絹地を巻いた提灯に灯りを灯していました。この提灯は新婚夫婦の生活のスタートに調和が保たれ、円満な生活が送れるようにとの願いが込められています。現在、青紗提灯は結婚式以外にも、他の伝統的な文化行事にて使用されます。行事に参加する来客の道を主催側が照らし、来客の歓迎を意味します。

韓国の伝統的な葬式に参加する際は、白い服を着用することが礼儀とされています。しかし、現在は西洋の影響により、スーツや暗い色の服を着用し、明るい色や色鮮やかな服やアクセサリを避ける傾向も見られます。また、人の名前を赤色で書くことは、縁起が良くないと認識されています。



韓国、青紗提灯



数字

数字の7は西洋の影響により、縁起のいい数字として認識されています。また、3は「完全」を表し、韓国人に好まれています。サムセボン（きっかり三度目）、マンセサムチャン（万歳三唱）、サムセパン（三番勝負）等、3は勝負時などに験担ぎのために使用されます。好まれる理由として、陰陽思想によると、3は陰と陽の調和性を表す数字であることが挙げられます。3は最初の奇数である1（陽の数字）と最初の偶数である2（陰の数字）に続く数字であるため、陰と陽の調和を保つ数字と認識されています。一方で、4は、韓国語の発音（サ）と漢字の「死」の発音が同じ、縁起の悪い数字として認識されています。そのため、韓国のエレベーターのボタンには数字の4の代わりにF（four）と書かれている場合があります。



贈り物

韓国では、重要な行事や祝い事の事前に贈り物をします。伝統的な祝日には果物、肉、海鮮物、飲料や日用品をプレゼントします。韓国では贈り主の前でプレゼントを開けないことが礼儀とされています。また、韓国語では、「合格した」を「付いた」とも表現するため、大学受験を控えた学生には、粘り気が特徴的な飴（ヨツ）や伝統的な餅菓子（チャプサルトルック）を贈り、合格祈願をします。

韓国では友達や親戚、同僚を新居に招いて引っ越し祝い（チプトゥリ）をします。来客は、石鹸や洗剤、トイレトーパー等をお祝いの品として贈ります。石鹸や洗剤は、泡立つ様子が、繁栄が溢れることを連想させ、トイレトーパーは、物事がトイレトーパーのようにスムーズに進む願いが込められています。

また、韓国で贈り物をする際において、気をつけるべき点もあります。例として、恋人に靴をプレゼントするとその靴を履いて去ってしまうという言い伝えがあります。ただし、2足贈れば、履いて去って行っても2足目の靴で戻ってくるので良いとされています。

韓国、チャプサルトルック



食文化



料理は日常生活において重要な部分を占めています。したがって、その国の社会について学び、理解するために料理は欠かせない存在です。日本、中国、韓国では米を主食とし、箸を使って食事をします。地理的には近い三国ですが、食文化に関してはそれぞれ独自の文化が発達しています。それは、料理の基本となる味覚が違うことから見て取れます。日本料理は甘味、塩味、酸味、苦味があります。中国料理は概して、甘味、塩味、辛味、酸味という四つの形容詞で表わされます。また、韓国料理の代表的な味覚は、塩味、刺激味、酸味、辛味であると言えます。



日本



米と大豆を抜きにして、日本の料理を語ることはできません。米は主食として、いろいろな料理とともに食されます。大豆もまた日本の料理には欠かすことのできない食材です。また、日本の伝統料理には魚を使った料理が多く見られます。醤油、味噌、豆腐など、日本料理で用いられる調味料や料理の多くは大豆から作られます。日本料理は4つの味、すなわち、甘味、塩味、酸味、苦味によって表現されます。これに、グルタミン酸によるうまみを加えられることもあります。典型的な日本の家庭料理として、ご飯、魚または肉の主菜、野菜料理などの副菜、味噌汁などの汁物、漬物が食卓に上がります。日本の人々は食事を準備してくれた人と、食べ物へ感謝の意を表するため、食事の前に「いただきます」と挨拶をします。食事を終えたら「ごちそうさまでした」と言い、感謝の気持ちをもう一度表わします。



日本、ラーメン ©David Pursehouse

会席料理

日本料理の基本である三様式として、会席料理、本膳料理、茶懐石料理があげられます。そのうち、会席料理は江戸時代（1603—1867年）に発達し、このコース料理は今でも高級料亭で供されています。会席料理は、野菜を中心とした料理がほとんどですが、お刺身などの生ものや焼き物、汁物も出されます。基本的に、これらの料理は一品ずつ順番に出されます。会席料理の種類や出される順序は、現代の和食のフルコースの基礎となっています。



日本、会席料理 ©JNTO



日本、にぎりずしと海苔巻

寿司

寿司は、最も有名な日本料理のひとつです。寿司は江戸時代（1603—1867年）にできあがった後、のり巻き、ちらし寿司、押し寿司、なれずしなど様々な種類がありますが、やはり、最も一般的なのは、酢飯の上に生あるいは火を通した魚介類の切り身をのせた握り寿司です。寿司を食べる際、日本の人々も多くの場合は外食します。美味しい寿司をつくるためには、専門的な修行が何年も必要で、家で作るのはとても難しいからです。寿司は健康に良いということから、世界中の多くの人々から愛されています。また、西洋で創作された寿司であるカリフォルニアロールは、寿司が日本食の枠を超えて、今や世界中で愛される料理となったことを示しています。



日本、ちらし寿司



日本、天ぷら



日本、蕎麦

箸と一般的な食事マナー

日本人は一般的に、一方の手で箸を持ち、もう一方の手で器や小皿を持って箸を使って食事をします。日本の箸は短く、一般的に木材で作られており、韓国の箸よりも軽く、先端に向かって細くなっています。料理は普通、個人の皿に盛り分けて出されます。また、日本人はテーブルマナーに厳格で、箸の使い方にも細かいマナーがあり、家庭で子どもに正しい箸の使い方を教えるのもしつけのひとつです。

中国

「お食事は済みましたか」というのが日常的な挨拶となっていることから見てとれるように、中国の社会において、食は重要な役割を果たしています。中国料理はその独特な色、香り、味から世界中で人気を博しています。中国は資源が豊富で、気候や生活習慣も様々であることから、地方によって異なる食文化を発展させてきました。例えば、伝統的に北方では小麦粉を基本とする料理が好まれる一方、南方では米が好まれる傾向にあります。また、中国料理には、山東料理(魯菜)、四川料理(川菜)、江蘇料理(蘇菜)、広東料理(粵菜)のいわゆる「四大料理」があります。それぞれの料理を定義づける特徴として、南方の料理は甘く、北方の料理は塩辛いと言えます。また、少数民族は独自の伝統料理と調理法を発達させました。

中国料理にはいろいろな種類の点心と串焼き料理があります。点心の中でも人気があるのは、小麦粉の生地に野菜や豚肉を入れて蒸した包子と呼ばれる肉まんです。中国の南部地方では、人々は小籠包を好んで食べます。近年、中国で人気のある料理をいくつか挙げるならば、北京烤鴨(北京ダック)、日本では酢豚で知られている糖醋里脊、鶏肉とピーナッツを唐辛子とともに炒めた宮保鶏丁などがあります。満漢全席は最も豪華な伝統中国料理として知られています。



中国、包子



満漢全席

満漢全席は満州族と漢民族の料理が融合して出来上がったものです。134品の温菜と48品の冷菜からなるこの豪華な饗宴料理は1日6食供され、それが3日間続きます。その昔、この饗宴では陸と海の幸を用いた、ありとあらゆる美味・珍味が揃えられました。残念ながら現在では、料理法の資料の多くは失われてしまいました。また、材料の中には絶滅危惧種として保護されている植物や動物があり、料理の材料として使うことができません。このような理由から、伝統的な形の満漢全席は伝説となってしまいました。



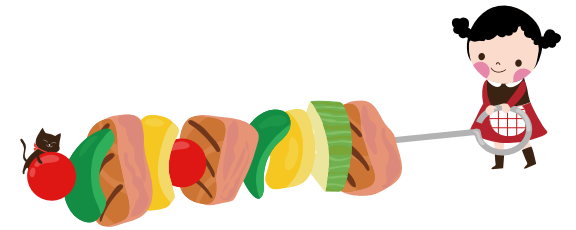
中国、満漢全席

北京ダック

中国のローストダック料理の始まりは元朝(1206—1368年)にまで遡ります。北京ダックは中国のローストダックの代表的な料理で、外国人観光客にとっては外せない料理のひとつです。赤味を帯び、つやのある表面の皮はパリッとしていますが、中の肉は柔らかくジューシーに焼き上げられています。ローストダックは100片以上に薄く切り分けられ、薄餅という薄く焼いた小麦粉の皮、きゅうりとたれと一緒に供されます。



中国、北京ダック



中国、箸 ©John Morgan

箸と一般的な食事マナー

中国では食事の際に、箸とれんげを使います。中国で使われる箸は日本や韓国のそれに比べて長く、先端に向かって細く、丸く作られています。伝統的に、片方の手で器を持ち、もう一方の手で箸を使いながら食事をするのが一般的です。

韓国



韓食と呼ばれる典型的な韓国料理は、ご飯、汁物、バンチャン（副菜）などが供されます。ご飯と汁物は、一般的に個人の器に盛りつけられますが、主菜の肉や野菜、チョンゴルと呼ばれる鍋もの、副菜などはすべて各自が取り分けて食べるように食卓の中央に置かれます。典型的な家庭料理以外にも、国民的に愛されている料理があります。それは、キムパブと呼ばれる韓国のり巻きや、トッポッキという餅、野菜、ゆで卵をコチュジャンで煮た料理などです。

韓国料理の特徴として、発酵食品の活用が挙げられます。他の国にもそれぞれ固有の発酵食品がありますが、韓国のように幅広い種類の発酵食品がある国はなかなか見当たりません。その例として、キムチがあげられます。キムチは伝統的な韓国のおかずであり、魚の塩漬け、唐辛子の粉、ニンニクやその他の香辛料ペーストに漬けた白菜や大根等のことを指します。韓国の家庭では昔から、11月の末から12月の初めにかけてたくさんのキムチを漬け、韓国の長い冬にもキムチが食べられるように備えます。その他の発酵食品として、テンジャン味噌、コチュジャン、米で作ったシッケという甘い飲み物や、マッコリなどがあります。



韓国、トッポッキ



韓国、のりまき（キムパブ）



韓国、韓定食

韓定食

近年に見られる韓定食は、その昔、宮中の饗宴で供された豪華な料理を簡略化したものと類似しています。西洋式のコース料理では、料理が一品ずつ供されますが、韓定食ではすべての料理が一度に食卓の上に並べられます。このような料理を初めて食べる人は、料理の多さに目を見張るでしょう。神仙炉という宮廷式鍋から味付けカルビ、海産物、キムチ、ナムル等、30種類以上の料理が食卓に並べられます。



韓国、神仙炉

ビビンバ

ビビンバは、韓国を象徴する料理です。これは本来、祭祀の後に残った料理を混ぜることに由来しています。今日の典型的なビビンバは、ご飯の上にナムルや、炒めた肉、目玉焼きなどが盛り付けられており、食べる前にスプーンを使ってご飯と他の材料を混ぜ合わせます。コチュジャンは料理に独特な風味を添えます。ビビンバは栄養豊かな低カロリーの料理で、韓国の代表的な健康食です。



韓国、ビビンバ

韓国、キムチ ©Lee Jongkeun



韓国、カルビ



箸と一般的な食事マナー

韓国では一般的に、金属製の箸とスプーンを使って食事をします。ご飯と汁物はスプーンを使って食べ、箸は他の料理を食べるのに使います。食事をする間、料理が盛り付けられた器は食卓から持ち上げることは、礼儀が良くないと認識されています。近年では、韓国の食事マナーも以前ほど厳格ではなくなりました。しかし、年長者や来客が箸やスプーンを手にとって食べ始めてから、他の人が食事を始めるというのが、今日でも社会的な基本マナーとなっています。

お酒

日本、中国、韓国では、お酒は生活の一部として多くの人々に愛されており、歴史を通して宗教や儀式的の場面で重要な役割を担ってきました。現在でもお酒が供される場が多く存在します。お酒は社会的なつながりを強くし、緊張を和らげる潤滑油だと考える傾向が三国の人々にはあります。ここでは、三国それぞれの代表的なお酒と異なる飲酒文化について見てみましょう。



日本

四方を海に囲まれているという地理的特徴が、日本独自の酒造技術を発展させました。日本ではお酒は単なる飲み物ではなく、同僚や友人など他の人と一緒に楽しむもので、社会生活の中でも重要な役割を果たしています。お酒の場は人間関係をより良くすることができると考えられているからです。

数ある飲み物の中でも、日本酒と焼酎は世界中で人気を博しています。醸造酒である日本酒は、1500年以上に渡って日本の人々から愛されてきました。その酒造方法は500年以上前から変わっていません。一方、焼酎は蒸留酒の部類に属しています。起源としては日本酒よりも浅く、今から約500年前に中国から蒸留方法が伝わったことが始まりとされています。

日本酒

日本酒は、結婚式に代表されるように、神道のお祭りや祭祀の際に重要な役割を果たしてきました。伝統的にお酒の神様は稲作と収穫の神様でもあることから、人々が豊かな収穫を願ったり感謝したりする際には、お酒の神様に祈りを捧げました。日本酒の主原料は米と水のため、お酒造りは良い米と水を探すことから始まります。また、お酒を醸造する際の特徴として、麴菌を使います。醸造過程は大変複雑で、高い技術力を要します。また、地域によって水や米、醸造方法が異なることから、5000以上の日本酒のブランドが存在します。日本酒は温度の変化とともにお酒の風味も変わるため、幅広い温度で楽しむことができるアルコール飲料です。



焼酎

日本の蒸留酒である焼酎は全国各地で作られています。焼酎の産地としては南日本が特に有名です。近年日本では、蒸留機の発達によって度数が低く香りの良い焼酎が作られるようになり、焼酎ブームが巻き起こりました。日本酒と同様に、焼酎も地域や蔵元によって酒造方法や味が異なることから、230以上のブランドがあるとされています。焼酎はジャガイモ、麦、米など様々な材料から作られます。アルコール度数は約30%で、お湯で割って飲むこともできます。また、若い人たちはハイボールグラスに焼酎と炭酸水や果汁等を加えて、チューハイとして楽しめます。

日本の飲酒文化とマナー

昔は日本の人々はお互いの関係だけでなく、神との繋がりを強くするため、1人ずつ杯を回してお酒を飲む風習がありました。お酒の席でのマナーのひとつとして、必ず一方が相手の杯にお酒を注ぎます。目上の人のお酌を受ける時は、杯に両手で添えるのがマナーです。



中国

中国ではお酒は4000年もの長い歴史があります。本来、お酒は天と地、先祖に捧げる神聖なものでした。その後、農業と技術の発達に伴って、様々な種類のお酒が生まれ、日常生活と切り離すことのできない生活の一部となりました。現在でもお酒は宴会や結婚式などで登場し、記念すべき瞬間を祝うための重要な役割を担っています。

中国のお酒は米や小麦などの穀物から作られ、刺激が少なく、まろやかな香りと甘味があるのが特徴です。中国のお酒は一般的に、白酒と黄酒に分けられます。白酒はアルコール度数が40～60%の蒸留酒です。黄酒はアルコール度数が20%以下の発酵酒で、伝統的に医薬品として用いられることがあります。この2つの酒は香りや辛味などによって、さらに細かく区分することができます。白酒と黄酒の中で代表的なものはそれぞれ、茅台酒と花雕酒です。

茅台酒 (まおたいしゅ)

茅台酒には200年を越える歴史があります。茅台とは、このお酒の生産地である貴州省の都市名です。茅台酒は、小麦やその他の穀物を用いて独自の方法で製造され、アルコール度数は一般的に40～55%とされています。外国からの貴賓をもてなす際に、このお酒が宴会で振舞われることから、茅台酒は中国の国酒として知られています。



中国、茅台酒



花雕酒 (かちょうしゅ)

花雕酒は浙江省紹興が発祥の地で、女兒紅、状元紅という名でも知られています。花雕酒は米と小麦から作られ、アルコール度数は一般的に16%です。女兒紅と状元紅にはそれぞれ「娘の酒」、「科挙試験の首席合格者」という意味があります。これらの名は、子どもが生まれたときに女兒紅（女の子の場合）又は状元紅（男の子の場合）を仕込んで地下に寝かせ、娘の結婚式や息子が試験に合格した際に掘り出すという地方

の伝統に由来しています。また、花

雕という名は、お酒を入れる

際に使う器に由来していま

す。中国の人々は、花雕

を意味する、赤い色

で装飾された花の彫

刻や模様のある陶磁

器を好み、結婚式の

際にもしばしば贈物

として贈られます。



中国の飲酒文化とマナー

中国では、飲酒は相手に対する尊敬を表わし、お酒を多く飲めば飲むほど尊敬の意を表すと言われています。このような傾向は、中国の南部地方よりも北部地方でよく見られます。1杯飲むごとに乾杯をし、一気に飲み干すのが一般的です。近年では、お酒を個人のペースで楽しむことが次第に一般化されつつあります。

韓国



アルコール飲料は、韓国の社会において欠かすことのできないものと考えられています。朝鮮半島で酒の存在が確認できる最も古い記録は2300年ほど前です。長い間、韓国の人々は来客と杯を交わしたり、祭祀などの行事の際にお酒を捧げたりしてきました。

農耕国家としての長い歴史の中で、米、小麦、もち米、その他の混合穀物が韓国のお酒の原料として使われてきました。特に米は醸造の過程において重要な原料で、米の発酵具合がお酒の味と香りを左右します。韓国の伝統酒は抽出のタイミングによって濁酒、薬酒（清酒）、焼酎の三種類に分けることができます。また、これらのお酒に加えて、現代の韓国人はクマイチゴの実で作った覆盆子（ポップンジャ）酒などの様々な果実酒、ビール、花やハーブを用いたカクテルなども楽しんでます。

韓国、覆盆子酒



マッコリ

米を用いてお酒を作る際、2つの層、すなわち澄んだ上澄み部分と、濃い沈殿層ができます。沈殿物が水と共に濾過されたものがマッコリと呼ばれる濁酒になります。韓国独自のお酒であり、この最も歴史のあるマッコリは、乳白色または不透明で、なめらかな風合いがあります。マッコリのアルコール度数は6～7%で、口あたりも比較的まろやかでやさしいお酒です。本来、マッコリは農民が辛い農作業の後に楽しむものでした。しかし、近年では世代を超えて人気になり、キムチや緑豆チヂミなどの肴と共によく飲まれます。マッコリは体に良いお酒として、外国でもよく飲まれるようになりました。

韓国、マッコリ



韓国焼酎

韓国の人々が日常的に好んで飲む韓国焼酎は、アルコール度数が16～25%の蒸留酒です。焼酎は甘味のある弱いウォッカのような味わいです。韓国焼酎には大きく分けて2つのタイプがあります。一方はエタノールを希釈して作られたもの、他方は米の代わりにサツマイモ、小麦、麦、タピオカ等を使って製造したもので、近年では後者の方が一般的です。多くの人々が、夜になると露店やテントの料理屋で、肴と一緒に比較的安価な韓国焼酎を楽しみます。若い世代は、りんご味やイチゴ味、桃味などと混ぜたカクテルを楽しんだりもします。



韓国の飲酒文化とマナー

韓国でお酒を飲むときに最も重要なことは、年長者に敬意を表することです。一般的に、年長者が注ぎ、目下の人が杯を受ける時には杯に両手を添えます。年長者の前でお酒を飲むときには顔を横に向けて飲むのが礼儀です。また、韓国では杯を空にしてからお酒を注ぐ習慣があります。

お茶



茶は世界で最も消費されている飲料の一つです。世界中でその優しい風味と味が親しまれています。日本、中国、韓国は長い茶文化の歴史があります。三カ国の共通の文化である「茶」は各国において、独自の発展がなされています。

日本



お茶は8世紀に遣唐使が中国の文化として初めて日本に輸入したといわれています。12世紀には中国から禅宗の教えと共に茶の新たな製造法と利用法が広まり、粉末状の緑茶を葉として飲む習慣が日本の寺院に生まれました。14世紀にはいと、庶民にも嗜好飲料として親しまれました。その後、禅文化や茶道道具や茶室のあり方が追及され、安土桃山時代(1568~1600年)に茶道の作法が確立し、現在は、習い事としても多くの人々に親しまれています。お茶の種類は沢山ありますが、日常的に飲まれる代表的な日本茶は、煎茶、ほうじ茶、玄米茶、麦茶等があります。また、日本では、西洋文化の影響により、紅茶も広く定着しており、近年烏龍茶をはじめとする中国茶が人気を博しています。



日本、日本茶の作法



中国、中国茶の作法

中国



茶は中国で発祥し、約5000年の歴史を持つと言われていいます。中国人は茶の品質を非常に重視します。お茶をたしなむ際において、その茶の良し悪しを見極めるだけではなく、茶を通じて真理を求め、精神的な喜びを得ることが嗜みの一部として捉えられています。

茶は、中国文化の伝統的な要素として重要です。中国では、「七つの生活必需品は、薪、米、油、塩、味噌、酢、茶」という有名なことばがあります。中国の家庭で人を招待するときは、歓迎の意を込めて中国茶を入れます。

有名な中国茶として、プーアル茶、龍井茶(りゅういちゃ)、碧螺春(へぎらしゅん)、鉄観音茶(てつかんのんちゃ)等があげられます。

中国茶の作法及びその芸術性は中国茶文化の重要な要素であり、製造法、茶器に加えて、色、香り、味も重要な要素となっています。

韓国



茶は7世紀に唐(中国)から新羅(韓国)の僧侶が持ち帰り、初めて紹介されたといわれています。その後、9世紀にかけて貴族や宮廷で茶が親しまれ、韓国人の好みや風習により独自の茶文化が発展しました。また、高麗時代(918~1392年)の陶磁器の発展により、茶器具の種類も充実しました。韓国の茶文化は、礼儀を重要視し、「茶礼(茶の儀式)」には「礼儀」の特徴が表れています。仏教儀礼として寺院で行われる儀式は「献茶礼(ホンタレ)」と呼ばれ、旧正月や秋夕(チュソク:韓国の法事)等に各家庭で行われる茶の儀式は「茶礼(チャレ)」と呼ばれます。韓国の茶文化は、韓国の四季と、清廉、清涼、素朴:温かみを重んじる古くからの美意識が強く反映されています。

韓国人は心身の健康のために、朝鮮人参茶、麦茶、ユルム茶(ナッツ等の粉末茶)、玄米茶、トゥングルレ茶(アマドコロ茶)ごぼう茶、とうもろこし茶、梅茶、五味子茶等の穀物、根や果物を使用した茶を飲みます。その他、煎じた茶葉から抽出された緑茶も好まれています。

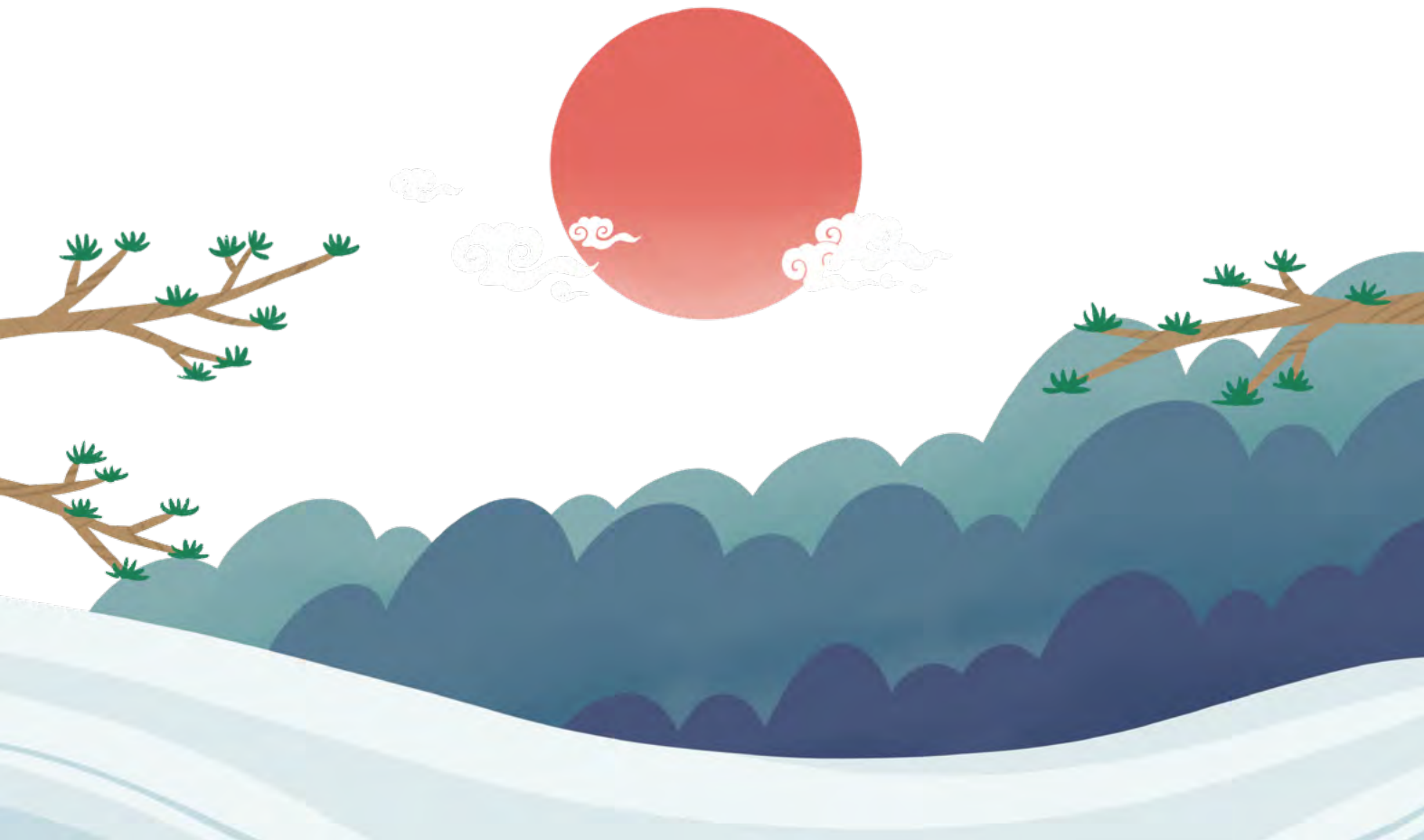
韓国、紅参茶



新年

Happy New Year.

日本、中国、韓国には様々な伝統的な年中行事があり、季節ごとに行なわれる行事はそれぞれ特有の意味があります。本章では、これらの多様な行事の中でも特に、三国の異なる新年の過ごし方について見てみることにしましょう。新年を迎える時期は三国の間で異なり、中国と韓国の新年は陰暦を基準としていますが、日本では太陽暦を基準としています。このような違いはあっても、三国の人々にとってお正月が一年の中で最も大きく、大切であるという点は共通しています。



日本



日本は祭りの国です。日本のどこかで毎日祭りが開かれているといっても過言ではありません。日本の伝統的な年中行事として、お正月、節分、ひな祭り、端午の節句、七夕などがあります。その中でも最も重要なのは、お正月（1月1日）です。

お正月の起源は、昔、日本の人々が収穫の神に感謝し、家族を守る先祖の霊を迎え入れたことから始まります。家の玄関先には門松や、注連飾りを飾り、家の中には神々や霊を迎え入れるために鏡餅が飾られます。近年には、お正月を比較的簡単に過ごす人々も多くなりました。



日本、鏡餅 ©midorisyu

お正月休みは三が日と呼ばれ、数日間つづきます。大晦日を含め、新年を迎える前に様々な準備があります。人々は年末には、家中の大掃除を行い、お正月にきちんと届くように、前もって年賀状を送ります。また、おせち料理、餅、雑煮など、



日本、門松 ©NEM

お正月に食べるお祝いの料理を作ります。ほとんどの人は家族と過ごすために帰省するので、毎年、年末には交通機関が混雑します。大晦日には、長寿や幸運を願って年越しそばを食べ、真夜中の12時になると日本中の寺院から除夜の鐘を108回つく音が響きわたります。



日本、羽子板



日本、除夜の鐘

お正月休みの間、人々は着物姿で家族や友人と連れ立って、神社や寺院にその年最初の参拝である初詣をし、昨年の感謝と来る年の安全や平和を祈願します。子供たちは両親や親戚から特別なプレゼントやお年玉をもらうため、お正月をとて楽しみにしています。また、伝統的に、多くの子供たちは凧揚げ、こま遊び、羽根突きやすごろくなどのゲームを楽しんだりもします。



日本、おせち料理



日本、こま




日本、凧揚げ

日本、北野天満宮「Photo by ©Tomo.Yun (http://www.yunphoto.net)」



中国

 中国の大きな伝統的祝日として春節、清明節、端午節、中秋節があります。それぞれの祝日は陰暦を基準として祝われ、中国の文化と歴史がさらに発展する思いが込められています。少数民族は、このような祭り以外にも固有の伝統的祝日を祝います。


陰暦のお正月である春節は、中国の人々にとって最も重要で大きな伝統的祝日です。春節の起源は約3600年前の商朝（紀元前1600—紀元前1046年）の時代にまでさかのぼります。当時の人々は年末年始に先祖に供え物を捧げました。春節という名称は、1911年に採択された太陽暦の新年と区分するために呼ばれるようになりました。人々は陰暦12月の末日である除夜から陰暦1月15日（元宵節）の間、春節を祝います。これは太陽暦でいう、1月から2月の中旬あたりに該当します。

春節は家族中心の祝日です。多くの人々は、春節を家族と過ごすために帰省するので、この間は交通機関が最も混雑する時期となります。人々は新年に備えて必需品の買い物、掃除、家の飾り付けなどを行い、新年を迎える準備をします。春節に欠かせないのが、赤い紙に筆文字で書かれた春節の春聯と呼ばれる対句の飾り付けです。祝福や幸福を意味する「福」の字は、祝いの装飾として至るところで見られます。



除夜と陰暦の元旦にあたる日が春節の最も盛大な時です。伝統的に、北方では餃子を、南方では餅が食べられます。人々は身なりを整え贈物を交わし、家族や親戚、友人などと充実した時間を過ごします。子供たちは压岁钱と呼ばれる赤い紙に包まれたお金を受けとります。また、春節の間、花火を打ち上げ、爆竹を鳴らします。爆発音は邪気を追い払うと考えられています。さらに、獅子舞、竜舞、早船という船と漕ぎ手を模した民間舞踊や、踏高蹠という竹馬を使った舞踊などの伝統行事もわれ、廟会と呼ばれる寺院の催しに参加することもあります。

韓国

 韓国では以前より、陰暦を基準に祝日を祝い、その時期が流動的に決められます。伝統的な祭りの中でもソルラル（旧正月）が秋夕と共に、最も大きな祝日とされています。一般的にソルラルは、太陽暦の1月末から2月中旬の間で、ソルラル当日と前後日を合わせた3日間が連休となります。また、太陽暦の1月1日も「新正」と呼ばれ、休日となっています。

韓国ではソルラルの連休の間、多くの人々が帰省します。ソルラルの朝は親戚が集まって、茶礼と呼ばれる先祖の霊を迎え入れるための祭礼を捧げるため、長男の家に集まります。韓国の伝統衣装である韓服を着て、家族は先祖の位牌と供え物の料理が置かれた祭壇に集まります。順番に祭壇の前でひざまずいて拝礼を行います。その後、餅の入ったスープであるトックク、チジミ、カルビの煮込み、韓菓と呼ばれる伝統菓子などの料理を食べます。韓国ではトッククを食べることでひとつ歳を取るという冗談もあります。ソルラルの準備はとて大変で、家庭によっては茶礼や家族が食べるための料理を1日ばかりで準備することもあります。近年の韓国では、キリスト教の家庭では祭礼を捧げる行事は行わないこともありますが、家族が集まってソルラルの料理を食べ、団らんのひと時を過ごします。

先祖に対する祭礼に続いて、下の世代の家族は新年の幸福と健康を願って目上の人に歳拝という、韓国式のお辞儀をする新年の行事を行ないます。この歳拝を受けて目上の人たちは子供たちに祝福の言葉をかけ贈り



物を渡します。ソルラルの連休の期間、家族は4本の木の棒を投げて駒を進めるユンノリと呼ばれるすごろくや、凧揚げやテレビでソルラルの特集番組を見るなど、様々な楽しみ方をします。ソルラルは家族全員が互いに打ち解けあう大切な時間であり、今日でも韓国で最も大きな祝日です。



伝統的な結婚式

世界中で最も盛大で幸福に満ちた行事のひとつは結婚式でしょう。結婚式は、家族、親戚、友人が新郎新婦の新しい人生を祝福するために、何代にもわたって変わりなく行われてきました。一方で、結婚式の形式は年月を経て移り変わってきました。近年では、日本、中国、韓国の多くの人々は、西洋式と伝統を合わせた結婚式を行います。本章では、三国それぞれの伝統的な結婚式を紹介します。



日本



日本では近年、様々な形で結婚を祝いますが、現在も伝統的な結婚式は高い人気を誇っています。日本の婚礼は、結婚式の前にも準備を要します。まず、結婚が決まったら、両家の家族と親戚は結納という伝統的な婚約式を行います。正式な婚約を取り交わすために、両家は円満、調和、長寿、子宝などを象徴する食べ物や人形、金銭などの贈り物を納め合います。

日本における結婚式の記録は少なくとも1500年以上前にさかのぼりますが、今日における、神社にて伝統的な結婚式を挙げる神前結婚式は、比較的近年になってから普及しました。それまでは新婦とその両親、親戚が、花嫁行列を行いながら新郎の家に向かい、結婚式と宴を挙げるのが一般的でした。それより昔には、逆に、新郎が新婦の家に出むいて結婚式を挙げていました。しかし、1900年にのちの大正天皇となる皇太子ご成婚の儀が神前で執り行われて以来、神前結婚式は一般的な日本の伝統結婚式と認識されています。花嫁衣装は純白の白無垢で、その上には内掛け、角隠しなどを身につけます。新婦の白い着物の色は旅の始まりを象徴します。花婿は紋付羽織袴を着ます。一般的に、新郎新婦の家族と近い親戚だけが神前結婚式に参加します。



挙式は次のような順で行われます。(1)お清め・お祓いの儀式、(2)神饌のお供え、(3)神主が神へ祝詞を奏上、(4)神酒を新婦新郎に注ぐ三々九度の盃の儀式、(5)新郎新婦が婚姻の誓いを読み上げる、(6)神主および新郎新婦が玉串をお供えする儀式、(7)親族が盃を酌み交わし、絆を深める儀式、(8)お供え物を下げる、(9)儀式の終了を告げる神主の一礼。



日本、伝統結婚式 ©LH00N



中国

中国の文化において結婚は昔から非常に重要な儀式と考えられ、その起源は2400年前にまでさかのぼります。一般的に婚儀は入念に準備を整えた上で行なわれます。新郎新婦の家族は、準備期間に媒酌人を間に立てて、新郎と新婦の生年月日などによって2人の結婚の可否を占います。伝統的な中国社会では、婚約のしるしに新郎側から新婦側に贈られる聘礼と呼ばれる結納の品が重視されます。

新郎の家族が結婚の吉日を選んだら、新郎側で婚礼ベッドを揃え、好命婦と呼ばれる者が結婚の前日にそれら運び込みます。一般的に、新婦もまた新郎の家族に宝石、台所用品、シーツや枕カバーなどの寝具用品などを納めます。

赤は中国の伝統的な婚礼において最も重要な色です。中国では赤は愛、喜び、繁栄を象徴します。結婚式当日、新婦は上下真紅の婚礼衣装をまとい、赤い靴をはきます。新婦の顔もまた赤い絹のベールで覆います。新郎は丈の長い婚礼衣装と赤い靴を身に着け、装飾が施された赤い絹の帯を肩にかけます。新郎とその家族は新婦を歓迎し、花轎という輿に新婦を乗せ、赤で装飾された新郎の家に連れて行きます。一方、結婚式の参列客は爆竹を鳴らし、慶事を祝い、邪気を追い払います。

結婚式は新郎の家で行われます。新郎新婦はまず天地の神を拝み（一拝天地）、次に父母を拝み（二拝高堂）、最後に新郎新婦が向き合ってお互いに拝み（夫妻対拜）、結婚式を終えます。式が終了するとすぐに新郎新婦は新婚部屋に入りますが、参列客はその後、新婚夫婦をからかうために新婚部屋に押しかけ、これを鬧洞房と言います。



韓国

結婚式は、韓国文化の中で最も重要でめでたい行事であると考えられてきました。伝統的な韓国の結婚式はとても複雑なものでしたが、時代の移り変わりと共に簡略化されました。最初に、両家は結婚の意思を取り交わします。婚礼が媒酌人を介して行われていた時代には、両親が結婚を取り決め、承認していました。結婚式の前日に新郎側の家族は箱に結婚の贈り物を入れて新婦側に結納の品を納めました。この慣習は今日も、新郎とその友人が箱を新婦の家まで運ぶという形で受け継がれています。伝統的には、結婚式は新婦の家の庭で行われました。新婦と新郎の家が遠く離れていた場合が多かったので、新郎が馬に乗って新婦の家に向かうというのが一般的でした。新郎が到着した後、永遠の愛と献身を象徴する雁の置物を新婦の母親に捧げ、誓いを立てる奠雁礼という儀式を行います。

結婚式の中で、新郎新婦は初めて顔を合わせます。新婦が先に2回お辞儀をし、新郎がそれに応えてお辞儀をすることを交拝礼と呼びます。その後、新郎新婦は同じひしゃくの盃で酒を飲みます。ひょうたんを半分に割って作られたひしゃくは、別々に生まれた新郎新婦が結婚によって1つになるという意味があります。結婚式では、新婦は韓国の伝統衣装である韓服の上に打掛のウォンサムやフアロツと呼ばれる婚礼衣装を着用し、新郎は、紗帽冠帯と呼ばれる朝鮮時代（1392-1910年）の官服と似た婚礼衣装を身に着けます。



韓国、幣帛のための品物



結婚式後、新郎新婦は新郎側の家族に挨拶をする幣帛という儀式を行ないます。これには親族のみが参加し、新郎の母が結婚した夫婦が子宝に恵まれる事を願って新婦のスカートにナツメと栗を投げ入れます。



韓国、奠雁礼のための品物



中国、伝統結婚式 ©kanegen



中国、伝統婚礼衣装



中国、聘礼



韓国、伝統結婚式 ©コアハウス

韓国、伝統結婚式の料理



スポーツ

日本、中国、韓国は、歴史を通して独特なスポーツ文化を維持してきました。三国の伝統スポーツはしばしば他の余暇活動よりもはるかに大きな重要性を持つことがあります。スポーツは政治や社会、文化の変容の産物であると同時に、各国民の精神を反映しているからです。三国の人々は、そのような伝統スポーツの継承に多大な努力を続ける一方、多くの現代スポーツを競技し、観戦しています。

日本



日本の伝統スポーツ 相撲

相撲は日本の伝統武道です。本来、相撲は豊作を願う宗教的な儀式として行われていました。奈良時代(710-794年)に力くらべや取っ組み合いから発生し、相撲へと発展しました。このように相撲が発展した理由として、宮廷から支援を受けてきたことが挙げられます。また、伝統的に相撲は宗教的な儀式であったため、神社で試合が行われました。

相撲の歴史を更に掘り下げてみると、日本における伝統的文化の多くの要素が見られます。例えば、試合を始める前に力士は威圧的な構えから土俵に砂を撒きます。これは土俵を清めるため、日本人は土俵を神聖な場と考えていることが背景にあります。他にも、力士は廻しを締め、伝統的な日本の髪型である髷を結っています。相撲の取組では、背が高く恰幅が良い二人の力士が土俵の上で互いに向かい合います。どちらかの体の一部が地面につくか、または土俵の外側に押し出されるまで両者は取組を続けます。

相撲は、単なるスポーツを超え、日本の伝統文化の生きた事例とも言え、現在においても国民の間で大変人気があります。



日本、相撲 © Davidsteadman



日本、白鵬



日本、柔道 © IQRemix



日本の伝統スポーツ 柔道

柔道は日本の代表的な武道です。柔道は、古くからあった柔術に精神修養の要素を加え、1882年に確立しました。その核心は「柔よく剛を制す」というもので、柔道では体が大きく力の強い人が必ず勝つわけではないことから、観衆を魅了してやみません。柔道は世界各国へと広がり、1964年の東京オリンピックに登場して以来、オリンピックの正式種目となっています。

日本国内の試合では、競技者は常に白の上衣、下ばき、帯を着用します。しかし、国際試合では2人の競技者を区別するために、一方は白い柔道衣、他方は青い柔道衣を着用します。柔道の精神は相手の力を利用して相手を制するというものです。四角いマットの上で行われる試合では、二人の競技者が67本の投げ技と29本の固め技を使い分けて勝敗を競います。

点数は技の完成度によって与えられます。技の点数で最も高いものが「一本」で、相手の背中を完全にマットにつける投げ技です。この一本をとった瞬間に勝敗が決定します。その他、相手方が「参った」と発声するか、または、相手の体やマットを2度叩いた場合にも勝敗が決まります。点数は技のほかに相手の反則で得られます。これは、組み合わせなかったり、故意に場外に出たり、戦意が乏しかった場合に適應されます。



現代日本における人気スポーツ

日本人々は伝統的スポーツの他に、西洋からの様々な球技も楽しめます。最も人気のあるスポーツは、野球とサッカーです。野球は、1934年の日本プロ野球の誕生以来、絶えず日本のファンを魅了してきました。一方、アメリカの大リーグでプレーする人気選手が増えたことから、日本では大リーグ観戦も人

気があります。また、春および夏の甲子園として有名な全国高等学校野球選手権大会は多くの日本の野球ファンの注目の的となっています。甲子園への出場は、プロ野球選手への登竜門となっています。

サッカーについては、日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)が日本で最も有名かつ権威あるサッカーリーグです。野球に加え、サッカーでも多くの選手が海外のチームでプレーしており、多くの人々はJリーグ以外にも、海外の試合などを好んで観戦します。特にワールドカップの期間中は、サッカーの話題がスポーツニュースをほぼ独占するほどです。日本のサッカー女子代表までしごジャパンが2011年FIFA女子ワールドカップで優勝し、翌年のロンドン夏季オリンピックで銀メダルを獲得したことから女子サッカーの人気上昇しています。

日本人々は、その他のスポーツにおいても観戦・競技して楽しんでいます。また、スター選手の活躍がきっかけとなり各スポーツの人気上昇することが多くあります。例えば、2007年に石川遼選手がマンシングウェアオープンKSBカップで最年少優勝者として名声を得たことにより、ゴルフに対する幅広い年齢層のファンからの注目が集まるようになりました。

また日本は、男女ともにフィギュアスケートが強く、浅田真央選手、高橋大輔選手、羽生結弦選手などの有力選手を輩出しています。また、2012年ロンドン夏季オリンピックで銀メダルを獲得した卓球の福原愛選手は、日本における卓球の普及に貢献しました。

日本でも、日常において様々なスポーツが楽しまれています。中学や高校において、様々な運動部活動が存在するのも日本の特徴です。各種大会での好成績を目指し、多くの学生が日々練習に励んでいます。また、社会人を中心に、ストレス発散も兼ね、フィットネスジム、ヨガやダンススタジオ等も人気です。



日本、プロ野球 © m-louis ©

中国の伝統スポーツ
太極拳

太極拳は一連のゆっくりとした動作によって、緊張緩和、健康および自己防衛力を促す効果のある、中国の伝統的武術です。太極拳は、相互作用の力を操る技術をもとにした武術の一派です。これは「柔よく剛を制す」という教えを土台とする中国の哲学的、宗教的伝統である道教に由来します。

「沾粘連随（相手に粘りつき動き従うこと）」が太極拳の基本です。また、他の主な技として、押す、引く、囲む、より合わせる、打つ、伏せる、たたく、放つなどがあります。このような技は修行者が自分の力を効率的に利用するのに使われます。

この柔軟な武術はあらゆる面で健康に良いとされ、世界中で人気を得ています。太極拳は自分の身を守るだけでなく、その肉体的、精神的健康を向上させます。特に、太極拳における呼吸法は緊張緩和を促進させ、これにより柔軟な体を形成し、生まれつき備わっているストレス解消能力を引き出します。太極拳は、外面と内面の力のバランスを強調し、あらゆる年齢の人々に適していることから、健康を促すスポーツとして全世界に広まっています。



中国、太極拳

中国の伝統的スポーツ
ドラゴンボート・レース

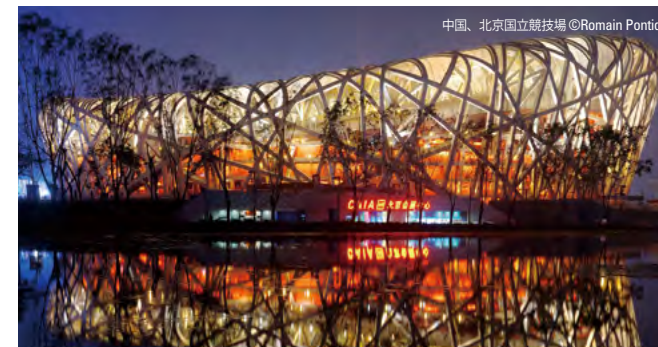
中国の伝統的協議であるドラゴンボート・レースは、平和、幸運、健康を促進するために中国全土で行われています。その起源は約2500年前にさかのぼり、陰暦の5月5日の中国端午節に行なわれる行事の一部です。

この伝統的な中国のお祭りは、中国の戦国時代（紀元前476-221年）の偉大な詩人である屈原を記念することに由来しています。屈原は、亡命中に自国が占領されたという事実を知り、川に身を投じました。人々は、屈原の体を魚から守るために太鼓をたたき、もち米を竹の葉で包んだちまきを川に投げたと伝えられています。それから、中国の人々は屈原に敬意を表すためにこのレースを行うようになりました。



中国では龍は強さ、力、守護を表す国の象徴です。端午節には、選手は伝統的な中国の龍をかたどった舟に乗り、レースは一日中繰り広げられます。レースに勝つために、選手は最も強く速い舟を作ろうと努めます。

本来、ドラゴンボート・レースは主に中国の南方で行われていましたが、1984年に中国政府により公式的な中国のスポーツとして指定されました。近年、アジアや欧米の国にも普及し、中国の伝統と現代中国社会のスポーツ精神を表すものとなっています。



中国、北京国立競技場 ©Romain Pontida



現代中国における人気スポーツ

中国の人々は日常生活の中で様々なスポーツを楽しみます。特に、2008年の北京オリンピックは、中国の大衆スポーツとスポーツ産業の発展のための新たな契機となりました。北京オリンピックはまた、北京における公共スポーツ施設の大幅拡充に大きく貢献しました。2022年冬季オリンピック・パラリンピックの開催地に選ばれた北京は、夏季と冬季の両方を主催する、世界初の都市となります。

中国では球技、特にサッカーとバスケットボールが人気で、サッカーは中国で最も人気のあるスポーツとされています。現在、サッカーは中国サッカー協会（CFA）が総括しています。国内試合としては16チームが参加する中国サッカー・スーパーリーグ（CSL）が行われています。同時に、ヨーロッパのサッカーリーグに対しても、多くの中国の人々が関心を寄せています。中国にはイギリス、ドイツ、スペイン、イタリアのリーグにあるチームの熱心なファンが大勢います。

バスケットボールも中国で人気のある球技です。中国の国内リーグである中国バスケットボール協会（CBA）は、各都市にチームを持っています。近年では、多くの国際的なバスケットボール選手が中国から誕生しました。国際的に有名な姚明（ヤオ・ミン）選手が2002年NBAに進出したことで、中国ではバスケットボールブームが巻き起こりました。

加えて、卓球やバドミントンが中国の人々の間で人気のある大衆スポーツとして長きにわたり定着しており、中国はこれまで数多くの世界的な有力選手を輩出してきました。

中国の人々にとって運動の目的は、「カロリー燃焼」以上に、「社交の場として楽しむこと」に比重が置かれる傾向にあります。公園や広場などで多くの高齢者が太極拳やウォーキングやグループダンス等に励む光景がよくみられます。若者にはバドミントン、ジョギング、ヨガ、バスケットボール等が人気です。



韓国の伝統的スポーツ
シルム

シルムは韓国の伝統的な相撲です。この自己防御のための武術は、他の部族や野生動物との戦いから自らの身を守るために、韓国の祖先によって作り上げられました。時が経つにつれ、シルムは単なるスポーツ以上のものになりました。シルムは韓国の歴史を反映し、文化的遺産と韓国の人々の価値観とを結合したものです。シルムには様々な技があり、大きく4つの技(手技、足技、腰技、混合技)に分けられます。

シルムの試合では、一方の選手の体が土俵につくまで競技が行なわれます。つまり、膝から上の体の部分が地面につくと負けとされます。選手はそれぞれ異なる色のサツパと呼ばれる綿の帯を身につけます。この帯は、選手の右足大腿部の周りを取り囲むように、結び目を作り巻きつけられています。また、選手は試合用の半ズボンのみを着用することが認められています。

シルムにはアマチュアとプロの2種類の競技があります。アマチュア競技は市や地域、全国レベルで開かれる一方で、プロの試合は全国レベルのみ開催されます。また、個人戦、団体戦は体重別の階級に分かれており、選手は同階級の選手とのみ試合をします。



韓国、シルム



韓国、シルム



韓国、テコンドー ©Republic of Korea



韓国の伝統的スポーツ
テコンドー

テコンドーは心身の健康に焦点を当てた韓国の伝統武道です。このスポーツによる健康へのメリットは、身体的に健康な人に限らず誰でも享受できるという点にあります。テコンドーは1988年のソウル夏季オリンピックで公開競技種目として初めて国際舞台に登場しました。その後、2000年シドニー夏季オリンピックでオリンピック正式種目となりました。現在に至るまで、テコンドーは国際的な名声を獲得し、グローバルなスポーツとなりました。

テコンドーという名前は直訳すると足と拳の術という意味ですが、戦いを止め、内面の平和を促すために体を正しく使用するものと言えます。「テ(踏)」は足技、「コン(拳)」は手技、「ドー(道)」は武道を意味します。初心者は10級の白帯から始まり、最高レベルである1段の黒帯を目指します。

選手はそれぞれ防具を着用します。試合は、3分ずつ、1分間の休憩時間を挟みながら3ラウンドで行います。選手は足技を使いますが、足技は足首より下の部分だけを使うことができます。また、拳の前方部分を使う手技によって得点を得ることもできます。しかし、相手の頭部を攻撃するために手を使用することは競技では禁止されています。



現代韓国における人気スポーツ

現在、韓国の人々は様々なスポーツを楽しんでいます。最も多くのファンを魅了する主要なスポーツとして、サッカーと野球が挙げられます。2002年FIFAワールドカップは、日本と共催で開かれ、韓国サッカーの転換点となりました。韓国代表チームは、若く、実力のある韓国選手(孫興民(ソン・フンミン)選手、奇誠庸(キ・ソンヨン)選手など)が国際舞台で活躍することにより、アジアの最強チームのひとつとなりました。韓国国内サッカーリーグであるKリーグは、数多くの観衆を集め、その他にも多くの人々がレクリエーションとしてサッカーを楽しみます。

野球も韓国で親しまれているもう1つのスポーツです。韓国野球委員会(KBO)所属の10のプロチームによる韓国の野球ゲームは、近年、熱狂的なファンで溢れています。韓国代表チームは徐々に実績を上げ、2008年の北京夏季オリンピックでは金メダル、2009年のワールド・ベースボール・クラシック(WBC)では銀メダルを獲得しました。秋信守(チュ・シンス)と柳賢振(リュ・ヒョンジン)選手といった野球選手は韓国で人気が高いだけでなく、国際的にも有名です。

また、韓国は大きな国際スポーツでも優れた選手を輩出しています。2010年バンクーバー冬季オリンピックのフィギュアスケート金メダリスト、金妍児(キム・ヨナ)選手は韓国のフィギュアスケートの「顔」です。韓国はまた、朴セリ選手、崔京周(チェ・ギョンジュ)選手、金美賢(キム・ミヒョン)選手など男女ともに多くの世界的なプロゴルファーを輩出しています。

韓国人は、趣味、社交、自己研鑽等、様々な目的のためにスポーツを楽しみます。登山やサイクリングは、年齢を問わず好まれているスポーツです。地域、職場、ネット等のコミュニティの気の知れた人同士で集まり、サッカーや野球などのチームスポーツを楽しむこともあります。近年では、自己管理のためにフィットネスジムに通うことや、ヨガやピラティスに励む人が増えています。また、韓国の若者の間では、eスポーツも人気です。



韓国、キム・ヨナ ©(QUEEN YUNA)

芸術

芸術は、私たちの生活と文化を豊かなものにし、テレビ、映画、メディア、その他の媒体がその流行や人気を発信しています。日本、中国、韓国は、それぞれ独自の歴史を通じて、多様で魅力あふれる芸術をつくり上げてきました。本章では、三国の現代芸術が共通の特徴を有する一方、三国の伝統芸術はそれぞれ異なる特色を持つことを紹介します。



©公益財団法人能楽協会 日本、能「葵上 梓之出」、シテ 駒瀬直也

日本

能

日本には能、狂言、歌舞伎、文楽という四大古典演劇があります。そのうち、能と狂言（能楽）は歌舞伎、文楽と共にユネスコの無形文化遺産に登録されました。観阿弥、世阿弥によって14世紀初めに成立した能は、現存する日本及び世界最古の演劇です。能の真髄は幽玄の美に見出すことができます。



般若の面
©日本芸術文化振興会、
国立能楽堂

伝統的な能の舞台はもともと屋外にありましたが、現在ではその多くが大型の建物の中に設置されています。舞台は堂々とした神社風の屋根に覆われた主舞台と、舞台に続く通路の役割を果たす橋懸から構成されています。能の演目は台詞だけでなく、謡、囃子、舞によっても表現されます。

役者は刺繍を施した見事な錦の衣装を身につけ、漆塗りの能面を着用します。能面には様々なものがありますが、一般的に、若い女や翁、鬼などのいくつかの種類に分けられます。役者は扇（中啓）など様々な手持ちの小道具を使いながら台詞にそって演技します。能には、笛や鼓などの楽器を舞台奥で演奏する囃子方と、登場人物の言葉や心情を謡う地謡がいます。



日本、歌舞伎

歌舞伎

歌舞伎は華やかな衣装、人目を引く化粧、様式化された舞、音楽、身振りや型を特徴とする日本の代表的な演劇です。能を静中の動という表現で特徴づけることが出来るとすれば、歌舞伎は派手な身振りと誇張された表現を特徴としています。歌舞伎は江戸時代（1603—1867年）に形成され、400年の歴史を通じて発展し続けてきました。歌舞伎は日本の四大古典演劇のひとつとして、能や文楽など他の古典演劇の要素も取り入れています。歌舞伎の舞台は能の舞台から発展していったものですが、歌舞伎独自の部分もあります。歌舞伎の演目は、多くの要素が文楽から取り入れられ、歌舞伎の作品として変化したものです。

初期の歌舞伎は、女性によって演じられていましたが、時が経つにつれ、成人男性役者による演劇として発展しました。歌舞伎が発展する中で、女形を演じる男性役者は、歌舞伎を象徴する存在となりました。また、歌舞伎の特徴として有名なのが隈取と呼ばれる役者の化粧です。役者は顔、首、手を白く塗り、唇と目の周りを赤、黒または青などの目立つ色で鮮やかな線を引きます。また、豪華な錦の着物や大きなかつらを身につけることで、役者の存在感を引き立たせます。

歌舞伎で使われる最も重要な楽器は三味線です。舞台上の音楽以外にも、唄方や奏者が三味線、笛、および様々な打楽器を舞台袖で演奏することがあります。

アニメとマンガ

近年の日本のポップカルチャーを代表格といえば、何と云ってもアニメとマンガがまず筆頭に挙げられるでしょう。

かつては、アニメやマンガのターゲットは主に子どもでした。しかし今日では、人々の心に訴える内容や複雑なストーリーライン、ときには社会問題を扱うなど、多様なジャンルの作品が生まれ、幅広い層を獲得するようになりました。

世界的に有名な宮崎駿監督のアニメ作品は、国や世代を越え、多くの人々に親しまれています。同監督の代表作である「千と千尋の神隠し」は、2002年のベルリン国際映画祭でアニメ映画としては初の金熊賞を受賞し、翌2003年の米アカデミー賞で日本の作品として初の最優秀長編アニメーション映画賞を獲得しています。

「鉄腕アトム」や「ドラゴンボール」は世界的に名が知れ渡り、海外で映画化もされました。ポケモン等のアニメは映像だけでなく、カードゲーム、キャラクターグッズ、携帯ゲーム等、様々な形でたのしまれています。アニメのキャラクターの扮装をするコスプレも、世界の多くのファンを得ています。

最近の作品では、「ONE PIECE」、「進撃の巨人」、「鬼滅の刃」等の作品が、幅広い年代に人気です。



日本、アニメ ©Othree



京劇



京劇は、中国の最も代表的な歌劇です。過去200年の間、京劇は各地方の歌劇と持続的に交わり合い、融合しながら、現在の歌、台詞、しぐさ、舞、立ち回りからなる形を確立しました。京劇は、美しい化粧と華麗な衣装で着飾った役者が優雅な身振りで中国文化や物語を表現することで、観衆を魅了します。

京劇の役柄は基本的に、生（男役）、旦（女役）、浄（隈取の役柄）、丑（道化役）の4つに大別されます。それぞれの役柄は、人物の年齢、性別、社会的な身分によって特徴づけられています。4つの役柄はさらに細分化され、多くの役柄が存在します。その多くは、化粧、衣装、身振りなどで人為的に誇張されていますが、浄と丑は、顔に臉譜という隈取を描きます。

異なる色と形式を用いた臉譜は、登場人物の性格や役柄、運命を象徴しています。基本的な色は赤、黒、白で、赤は忠誠心、知恵、誠実さなど肯定的な意味を表し、黒は勇気と清廉さを表します。白は狡猾や巧妙など否定的な側面を表し、紫、黄、青、緑もまた、それぞれ固有の意味を持っています。



中国、京劇 ©Vite



雑技

中国の雑技は、様々な曲芸を含み、長い歴史と豊かな伝承を持っています。雑技の基本は、雑耍（ジャグリング）、魔術、技巧の3つです。

雑耍は、演技者が器、皿、帽子など色々なものを組み合わせながらジャグリングをする技です。用いる道具は、日常的に使われる小物が多いのですが、これは雑技が一般の人々の日常生活と密接な関わりがあるためだと言えます。

魔術は、主に中国の手品に関係し、電気の原理や化学、機械、色彩を調和させたものです。演技者は緻密に設計された技法を使い、素早い手さばきでまたたく間に演技を行ないます。

技巧では、竿を持ち上げたり、足で物をジャグリングしたりするなど、演技者が物を使って色々な動作をしながらバランスを取ります。このため、演技者は、腰、脚、頭を使った曲芸の訓練を幼い頃から始め、これらの難しい訓練に多くの時間と努力を費やします。

伝統的に、雑技鑑賞は多くの演技者が集まる北京の天橋が本場として知られています。近年では、天橋雑技劇場で世界最高水準の雑技公演が行われています。また、河北省の呉橋は「中国雑技の故郷」として知られています。



中国、京劇 ©陈文



中国、雑技 ©shizhao



中国映画

中国の映画産業は、1913年に誕生しました。幾度にわたる浮き沈みがあったものの、中国映画は1979年以降、著しい発展を遂げました。中国大陸の映画が目を見張るような成長を遂げると同時に、香港や台湾の映画もまた成功を収めました。今日、中国の映画市場は世界で2番目に大きな市場です。中国映画は、折に触れて歴史・社会問題を扱ってきました。このように、中国における都市化や社会運動の増加など中国社会の変化を描きしようと試みた作品がしばしば見受けられます。

張芸謀（チャン・イーモウ）、陳凱歌（チェン・カイコー）などに代表される中国の第5世代の映画監督たちは、中国映画の美しさを全世界にアピールしました。それによって、第43回ベルリン国際映画祭や1993年のカンヌ国際映画祭をはじめとする国際的な映画祭で、多くの映画が受賞しました。賈樟柯（ジャ・ジャンクー）、姜文（チャン・ウェン）といった新たな世代の映画監督も世界的な名声を得ています。成龍（ジャッキー・チェン）や章子怡（チャン・ツイイー）などの映画俳優は世界的なスターとなり、中国映画の知名度を高めることに貢献しています。



中国、ジャッキー・チェン ©Walt Disney Television



中国、チャン・イーモウ



農楽

農楽または風物ノリは、韓国で昔から広く受け継がれている大衆伝統芸能で、歌、踊り、それに合わせた曲芸からなる総合芸術です。農楽は農民による豊作祈願や収穫祝いの祭りに由来し、農作業の合間の息抜きとして始まったと言われていいます。その後、農民の生活における喜びや悲しみを表現する音楽として、人々の生活と深く関わりながら発展してきました。

農楽は基本的に野外で行われます。演者は鮮やかな色の衣装を着て、長い紐の付いたサンモと呼ばれる帽子をかぶり、演者は紐が円を描くように頭を回しながら、音楽に合わせて歩き、走り、時には飛び跳ねながら打楽器や吹奏楽器を演奏します。観客は、演者たちと一緒に踊り楽しむこともあります。

また、農楽を舞台芸術として取り入れたのが、サムルノリと呼ばれる韓国打楽器による新しいタイプの芸能です。サムルノリとは、公演に使用される4つの楽器を意味し、テンポの速いリズムを特徴としています。観客は拍手をしたり、チュムセと呼ばれる合いの手を入れたりして公演に加わることもできます。この新しいスタイルの公演は、1978年に誕生して以来、急速に人気を得ています。



韓国、農楽



パンソリ

パンソリは、歌手と鼓手によって演じられる口承文芸で、音楽の伴奏なしに歌う一種のソロオペラと言えます。歌手は韓服を着て、扇子を片手に持ち、歌、語り、身振りによって物語の中心的な役割を演じます。鼓手は歌手や観客の興を煽るためにチュムセという合いの手を入ながら公演に加わり、公演は長い場合、9時間に及ぶものもあります。

パンソリを形作る構成、特徴、位置づけなどの起源は朝鮮時代(1392—1910年)にさかのぼります。パンソリは、雑草のような人々のたくましさや生命力を体現していると言われるように、人々の喜怒哀楽を反映させながら発展を遂げてきました。本来、12の演目があったパンソリでしたが、現存している演目は5つのみです。パンソリは2003年にユネスコの無形文化遺産に登録されました。

パンソリでは、たとえ歌手の声がなくても自分の声で歌うことを「美声」と考えてきました。自身の音楽性によって人々を感動させることができる歌手は名唱と呼ばれます。観客は、鼓手と同様、チュムセを入れることで公演に参加します。



韓流

近年、韓流が大きな脚光を浴びています。韓流とは、音楽、テレビドラマ、映画を中心とする韓国の芸能および大衆文化がブームとなる現象のことで、1990年代から始まりました。これは、中国での韓国大衆文化の人気の高まりを表現するために、中国メディアが初めて韓流という言葉で表現したことからはじまります。その後、韓流は徐々に影響力を増し、韓国製品に対する国際的な需要を引き出すとともに、韓国文化をアジア及び世界に広める役割を担いました。

初期の韓流は、テレビドラマが主流でしたが、現在はK-POPが韓流の中心として広まっています。2000年以降、K-POPは国境を越えて拡散し、世界的なブームを巻き起こしました。K-POPスターたちの容姿や華麗なダンス、親しみやすいメロディーなどが多くのファンを魅了しています。少女時代、BIGBANG、PSY、BTS、TWICE、BLACKPINK等はアジアのみならず、世界中で注目されています。

ポン・ジュノ韓国の映画「パラサイト半地下の家族」は、2019年のカンヌ映画祭で韓国映画として初のパルムドール(最高賞)を、翌2020年の米アカデミー賞では韓国映画としてのみならず、非英語作品として史上初の作品賞受賞という快挙を成し遂げ、世界各国で高い興行成績を挙げました。



韓国、BTS ©Mnet

日中韓三国協力事務局 について

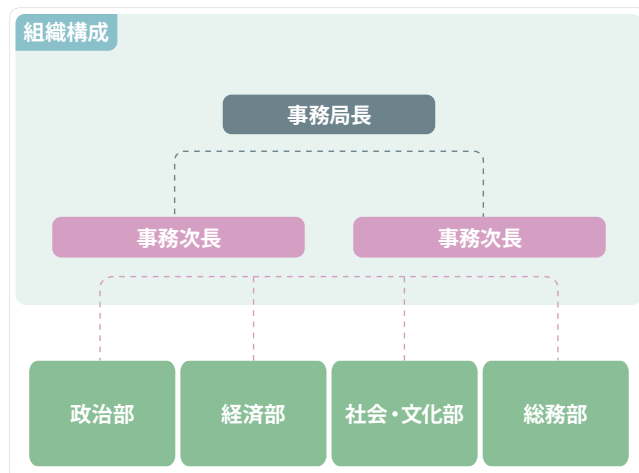
三国協力和日中韓三国協力事務局(TCS)について

日本、中国、韓国の三国交流の始まりは1999年にマニラで行われたASEAN+3サミットにて開催された三国首脳間の朝食会に遡ります。2008年からは、ASEANの枠組みから独立した「日中韓サミット」が開催されています。日中韓の大臣級会合は20年をかけて外交、環境、貿易、経済、防災、教育、文化等を含む、全21に増えました。

日中韓三国協力事務局(TCS)は日本、中国、韓国の平和と安定、繁栄を促進するために設立された国際機関です。三国政府によって署名及び批准された協定に基づき、2011年9月より韓国・ソウルにて正式に活動を開始しました。TCSの運営予算は、各国が3分の1ずつ負担しています。

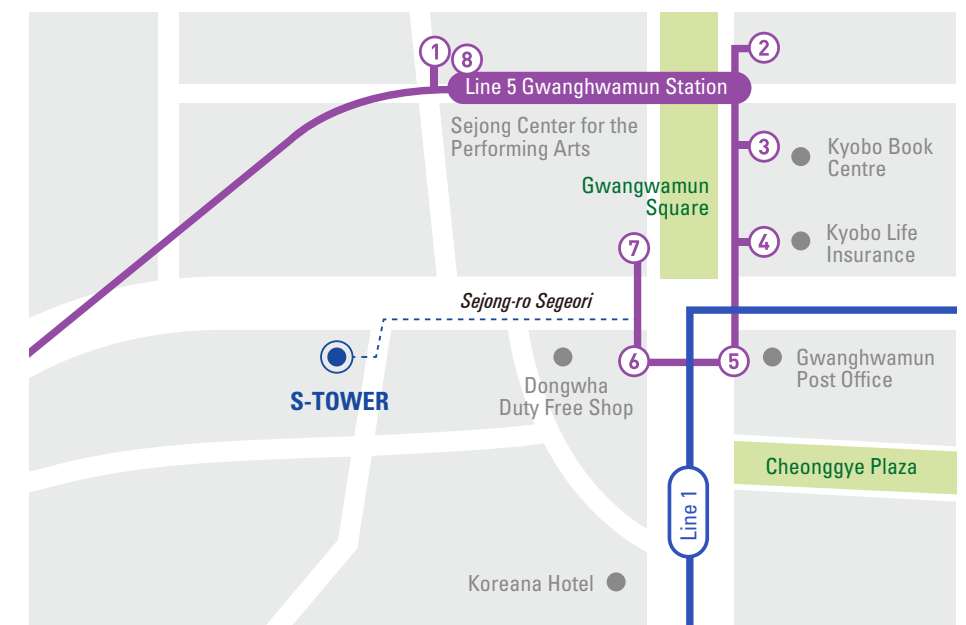
TCSの目的は、三国間の協議の仕組みを運営し及び管理するための支援を提供し、並びに協力案件の探求及び実施を促進することにより、三国間の協力関係のさらなる促進に寄与することであり、日中韓三国協力国際フォーラム、日中韓コース・サミット、日中韓起業家フォーラム、日中韓FTAセミナー、日中韓記者交流プログラム、日中韓共通語彙集等、数多くの事業を実施しています。

TCSは、事務局長1名と事務次長2名による協議理事会と政治部、経済部、社会・文化部及び総務部の4つの部署で構成されています。



アクセス

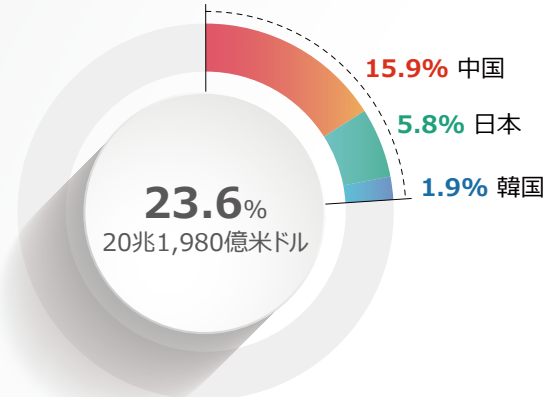
住所	大韓民国ソウル特別市 鍾路区新門安路82 S-Tower 20階
電話	+82-2-733-4700
Fax	+82-2-733-2525
Eメール	tcs@tcs-asia.org



日中韓主要統計 (2018)

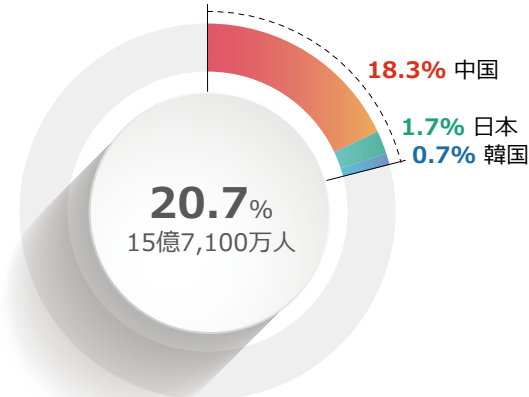
国内総生産 (GDP)

出典：世界銀行グループ



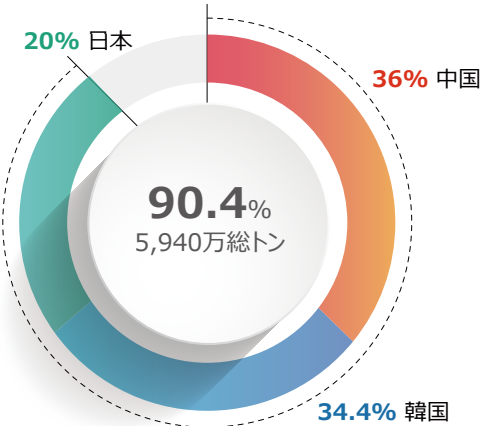
人口

出典：世界銀行グループ



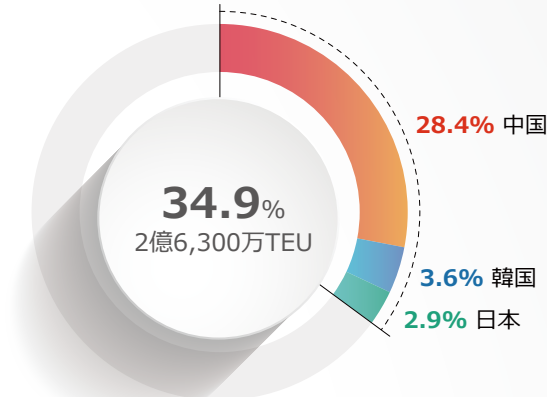
新造船建造量

出典：国連貿易開発会議



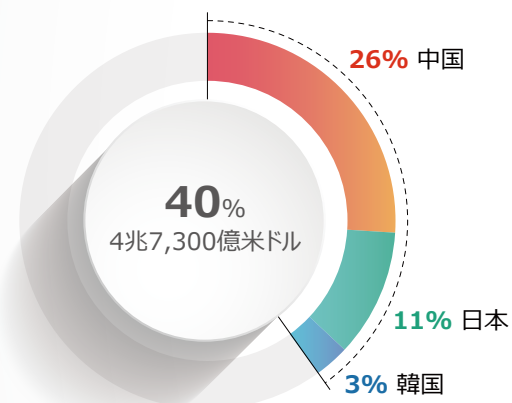
コンテナ取扱量

出典：世界銀行グループ



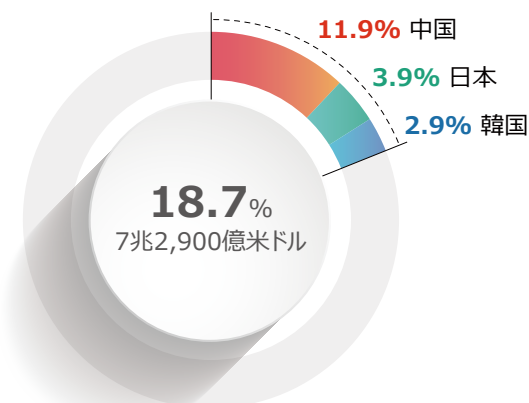
外貨準備高

出典：世界銀行グループ



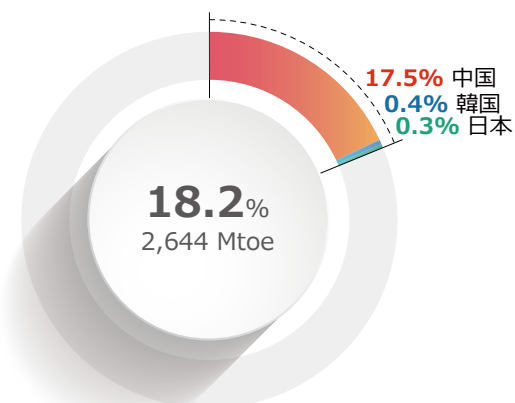
貿易額

出典：国際通貨基金-輸出入貿易統計



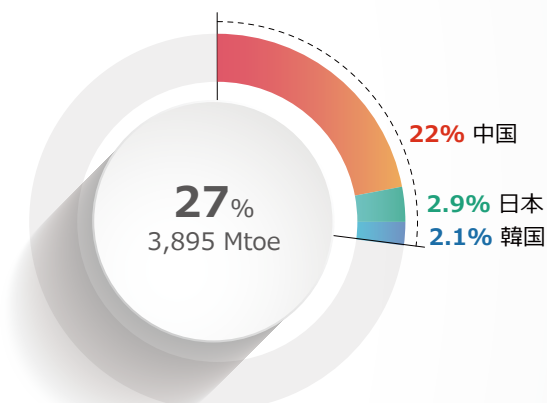
エネルギー生産

出典：Enerdata



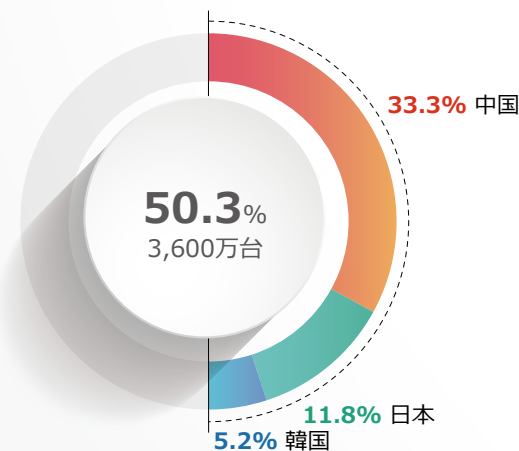
エネルギー消費

出典：Enerdata



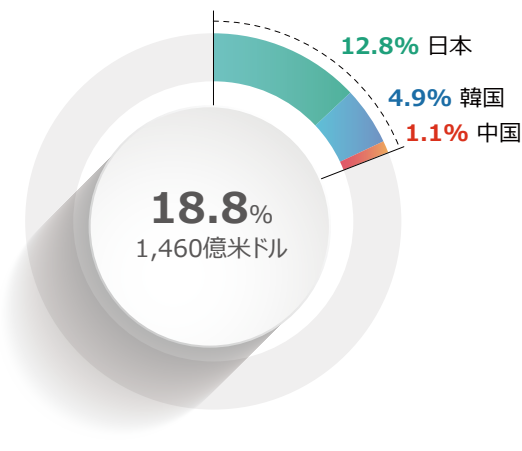
乗用車生産台数

出典：国際自動車工業連合会



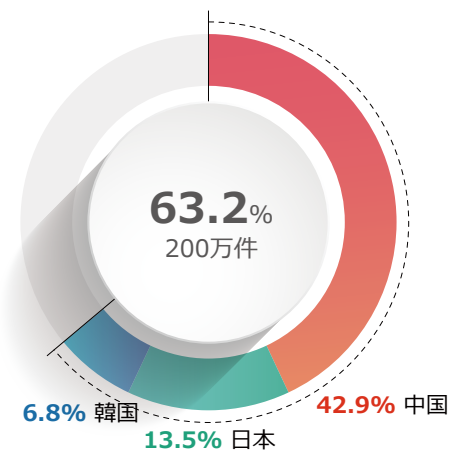
自動車輸出額

出典：国連商品貿易統計データベース



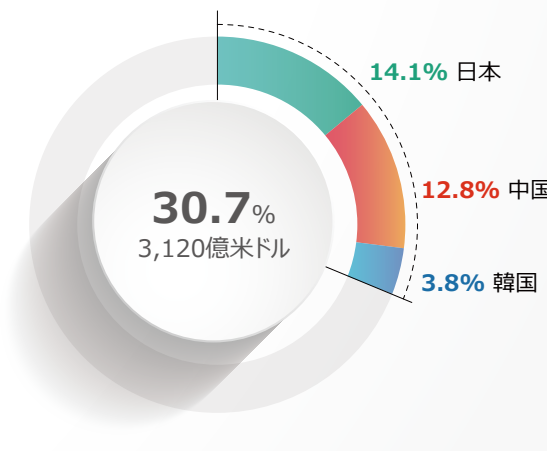
知的財産権 (特許出願)

出典：世界知的所有権機関



海外直接投資

出典：国連貿易開発会議



参考文献

Asahi Breweries, LTD., Japan

http://www.asahibeer.co.jp/

Asian Education Media Service

http://www.aems.illinois.edu/index.html

An Introduction to Korean Culture / Koo Nahm / Hollym

British Tae Kwon Do

http://www.britishtaekwondo.org.uk/

Cabinet Office, Japan

http://www.cao.go.jp/index-e.html

Central Research Services, Inc., Japan

http://www.crs.or.jp/

China.com.cn

http://www.china.com.cn/aboutchina/zhuanti/cwh07/node_7031338.htm

China Culture.Org

http://www1.chinaculture.org/index.html

China Daily

http://www.chinadaily.com.cn/english/home/index.html

China, Japan, Korea: culture and customs: ju brown

https://books.google.co.kr/books/about/China_Japan_Korea.html?id=3r-3YH3t45cC&redir_esc=y

China.org.cn

http://www.china.org.cn/

China Today

http://www.chinatoday.com/

Chinese Historical and Cultural Project

http://www.chcp.org/index.html

Confucius institute

http://www.cim.chinesecio.com/hbcms/f/article/info?id=b57dafabcde547efbab46b0492638731

Consulate-General of the People's Republic of China in Los Angeles

http://losangeles.china-consulate.org/eng/

Cultural China

http://www.cultural-china.com/

East Asian Tea Institute

http://www.ea-tea.co.kr/

E-national Indicators, ROK

http://www.index.go.kr/egams/index.jsp

Facts about Korea/ Korean Culture and Information Service Ministry of Culture, Sports and Tourism/ Hollym

Foreignercn.com

http://www.foreignercn.com/index.php

Gochang Pansori Museum

http://pansorimuseum.com/eng/

Hakutsuru Sake, Japan

http://www.hakutsuru.co.jp/english/

Hanban (Confucius Institute Headquarters)

http://english.hanban.org/

Han Style, ROK

https://www.han-style.com/english/

Himeji City

http://www.city.himeji.lg.jp/index.html

Himeji Tourist Information Hime no Michi

http://www.himeji-kanko.jp/en/

Japan Arts Council

http://www.ntj.jac.go.jp/english.html

Japan as it is / Gakken

JapanBall.com

http://www.japanball.com/index.htm

Japan External Trade Organization

http://www.studyinkorea.go.kr/ja/main.do

Japan Fact Sheet

http://web-japan.org/factsheet/index.html

Japan Foundation

http://www.jpf.go.jp/

Japan National Tourism Organization

http://www.jnto.go.jp/eng/

J-Cast.com, Japan

http://www.j-cast.com/japan/

J. League

http://www.j-league.or.jp/eng/

Kabuki

http://www2.ntj.jac.go.jp/unesco/kabuki/en/index.html

Kids Web Japan

http://web-japan.org/kidsweb/index.html

Kiku-Masamune Sake, Japan

http://www.kikumasamune.com/index.html

King Sejong Institute Foundation

www.sejonghakdang.org

Kokugakuin University

http://www.kokugakuin.ac.jp/index.html

Korea Be Inspired

http://english.visitkorea.or.kr/enu/index.kto

Korea Culture & Tourism Institute

http://www.kcti.re.kr/index.dmw

Korea Funeral Culture & Policy Institute

http://www.kfcpi.or.kr/

Korean Cultural Service New York

http://www.koreanculture.org/main

Korean Culture and Information Service

http://www.kocis.go.kr/

Korean Gallup

https://www.gallup.co.kr/

Korea.net

http://www.korea.net/

Korea Traditional Wine

http://www.koreansool.com/default/

Lonely Planet China / Damian Harper / Lonely Planet

Liquid Jade: The Story of Tea from East to West

https://www.amazon.com/Liquid-Jade-Story-East-West-ebook/dp/B00IQ0C2LC/ref=sr_1_1?dchild=1&keywords=the+liquid+jade&qid=1590988848&s=books&sr=1-1

MeSay, Japan

http://www.mesay.biz/index.htm

Ministry of Culture, Sports and Tourism, ROK

http://www.mcst.go.kr/main.jsp

Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, Japan

http://www.mext.go.jp/english/

Ministry of Foreign Affairs of Japan

http://www.mofa.go.jp/index.html

National Bureau of Statistic of China

http://www.stats.gov.cn/english/

National Geographic

http://www.nationalgeographic.com/

Omotesenke Website

http://www.omotesenke.jp/list2/list2-1/list2-1-1/

People.com., China

http://www.people.com.cn/

Sankei Shimbun, Japan

http://sankei.jp.msn.com/

Sejong Special Self-Governing City

http://www.sejong.go.kr/global/en/index.jsp

Seoul Metropolitan Government

http://www.seoul.go.kr/main/index.html

Studying in Korea

http://www.studyinkorea.go.kr/en/main.do

Supreme Court of Korea

http://eng.scourt.go.kr/eng/main/Main.work

Takara Sake, Japan

http://www.takarasake.com/home.php

Tea Culture through Tea Leaves: Jinsu Lee and Jinmi Lee

//www.kyobobook.co.kr/product/detailViewKor.la?mallGb=KOR&ejkGb=KOR&linkClass=081707&barcode=9788993255133

The Academy of Korean Studies

https://www.aks.ac.kr/

The Asahi Shimbun

http://www.asahi.com/english/

The Central People's Government of the People's Republic of China

http://www.gov.cn/

The Japan Times

http://www.japantimes.co.jp/

The National Assembly, ROK

http://korea.assembly.go.kr/

The Urasenke Foundation San Francisco

http://www.urasenke.org/tradition/index.php#senrikyu

Three countries of east asia (Chinese edition): jin wengue,

https://www.amazon.cn/dp/B004JQ0D0E

Tokyo Grand Tea Ceremony

https://tokyo-grand-tea-ceremony.jp/about.html

The National Institute of the Korean Language

http://www.korean.go.kr/eng/

The University of Edinburgh

http://www.ed.ac.uk/home

Travel China Guide.com

http://www.travelchinaguide.com/

TVETipedia

http://www.unevoc.unesco.org/tviki_front.php

Umami Information Centre

http://www.umamiinfo.com/

Understanding the difference of Tea Culture between South Korea, Japan, and

China: Geunsu Lee

https://www.naks.org/jml/conference-proceedings/126-2014-10-22-06-30-38

UNESCO World Heritage Centre

http://whc.unesco.org/

Urasenke Konnichian Website

http://www.urasenke.or.jp/textb/spirit/spirit2.html

Visit Seoul

http://www.visitseoul.net/en/index.do?_method=main

World Bank

http://data.worldbank.org/

World Ssireum Federation

http://worldssireum.org/

思想政治(必修)三年級(全一册) / 人民教育出版社

新中学校 公民 改訂版 日本の社会と世界 / 清水書店

佐藤貴悦・斎藤智文・巖鐘仁 (2015) 日中韓マナー・慣習基本辞典：

プライベートからビジネスまで知っておきたい11章. 勉誠出版.

吉村耕治・山田有子 (2019) 日本文化における紅白の意味－

日本の色彩文化の特質. 日本色彩学会誌, 43 (3)：47-50



日中韓ハンドブック Into the Three Countries

第1版	2013年7月
第2版	2015年2月
第3版	2020年7月
編著者	小野山香衣、林美蓮、笹尾望美、孫ハイエスル、張夏源
監訳者	道上尚史 事務局長 姜度好 事務次長 曹静 事務次長 長淵憲二 社会文化部部长
発行者	道上尚史 事務局長
発行所	日中韓三国協力事務局
電話	+82-2-733-4700
Fax	+82-2-733-2525
ウェブサイト	www.tcs-asia.org
Eメール	tcs@tcs-asia.org
ISBN	979-11-88016-34-1 03380

Copyright © 2020 by Trilateral Cooperation Secretariat.
All rights reserved. No part of this publication may be reproduced stored in a retrieval system or transmitted in any form or by any means electronic mechanical photocopying recording or otherwise without written permission of the publisher.



Made by FSC certified 'Montblanc' from HANSOL paper company.
FSC refers certified mark for the product which manufactured by Eco-friendly woods not supplied from primeval forest or gene manipulation woods.

